

様式第 4 [基本計画標準様式]

○基本計画の名称：金沢市中心市街地活性化基本計画

○作成主体：石川県金沢市

○計画期間：令和 4 年 4 月から令和 9 年 3 月まで（計画期間 5 年）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 金沢市の概況



金沢市は、日本海に大きく能登半島が突き出る石川県のほぼ中央に位置し、東は富山県境から西は日本海まで東西 23.3 km、南は白山山麓から北の河北潟まで南北 37.3 km の範囲にあります。市域の南部は白山山系から連なる山地が占めており、北部は金沢平野を経て、日本海に臨んでいます。この山地を水源とする犀川及び浅野川の二大水系が市域を 3 つに分けています。市の西部に展開する平野は、犀川を境に北部と南部に分かれており、北部は傾斜が穏やかな沖積平野であるのに対し、南部は石川県内で最長の河川である手取川が形成する扇状地の北東端部にあたり、北部の平野に比べ起伏が多く見られます。中心市街地は、3 つの丘陵・台地と 2 つの河川で構成される変化に富んだ地形構造を有しています。

気候は、日照率の低い日本海側の気候であり、冬期は、気温が低く雪の降る日が多くなります。また、寒暖の季節風の影響を受けやすく、季節の移り変わりがはっきりしています。

金沢のまちの起こりは、農民を中心とした一向宗の信者が、加賀の守護を滅ぼし、真宗本願寺の末寺を金沢御坊として建立、寺のまわりにまちがつくられたことがはじまりといわれています。その後、天正 11 年（1583 年）前田利家が金沢城に入城して以来、加賀、能登、越中を合わせた加賀百万石の城下町として繁栄を続け、元禄期には全国第 4 位の人口となるほどに発展しました。

明治 22 年（1889 年）市制が施行、太平洋戦争でも戦災を受けず、旧城下域を中心に都市化が進み、周辺町村を編入する形で市域が拡大、県庁所在地として発展を続けました。平成 8 年（1996 年）には中核市となり、歴史や伝統、学術・文化を大切にしながらも、絶えず革新の営みを続けて来たこれまでのまちづくりは、平成 21 年（2009 年）に「歴史都市」、「創造都市」として認められました。平成 25 年（2013 年）には世界の「交流拠点都市金沢」の実現という新しい都市像を策定、平成 27 年（2015 年）に念願の北陸新幹線金沢開業が実現しました。令和 2 年（2020 年）には「SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業」にも選定されました。

金沢市の中心市街地は、旧城下町区域を指します。この区域では、金沢城を核に、寛文・延宝期（1661～80 年）までには、近世日本を代表する城下町が形成され、江戸、大阪、京都に次ぐ人口を誇りました。城下町は、加賀藩の政治、経済、文化の中枢であり、交通の要衝として城下の道路網も集中していました。城下の中心部を横断する基幹道であった北国街道は、近代以降も広域幹線国道として維持・整備されており、都心軸の一部として中心商業・業務地区を形成しています。

明治維新以降は、武家の没落や転出により、人口減少や都市活動の停滞が起り、金沢城は軍用地になるなど、藩関係の施設が公的施設に転用されていきました。明治 20 年（1887 年）に第四高等中学校が設立、明治 31 年（1898 年）に第九師団司令部が設置、鉄道が開通すると、人口は次第に増加し、大正期には藩政期と同じ人口まで回復しました。

第二次世界大戦が終戦を迎えると、金沢城跡に金沢大学、出羽町一帯に金沢美術工芸大学、金沢女子短期大学が設置されるなど、中心市街地には、商業施設に加え文化施設が集積するようになりました。

金沢市の中心市街地は、400 年以上も戦禍に遭わず、大きな自然災害もなかったため、近世城下町の都市構造（広見を取り込む城下町独特の街路網、惣構・用水網）や歴史遺産（土塀が連なる武家屋敷群、町家、寺社建築、寺院群、茶屋街などの歴史的街並み）が良好に残されています。金沢に形成された城下町は、城下 3 方の縁辺部に配置された他に類例がない規模の寺院群や、大名クラスの家臣団の屋敷が、その上屋敷を中心に金沢城を囲むかたちで小城下のように形成された複合的な構造を有する大型城下町であり、その都市構造は、近世日本独自の都市計画を今に伝えています。

それに加えて、加賀藩によって行われた美術工芸の振興により、文化や工芸技術が今も息づいています。日本独自に発展した都市形態である近世城下町を代表する都市は、江戸でしたが、その歴史的風致は失われており、近世城下町が有した要素を伝える金沢市の中心市街地は、歴史的価値を有する区域と言えます。

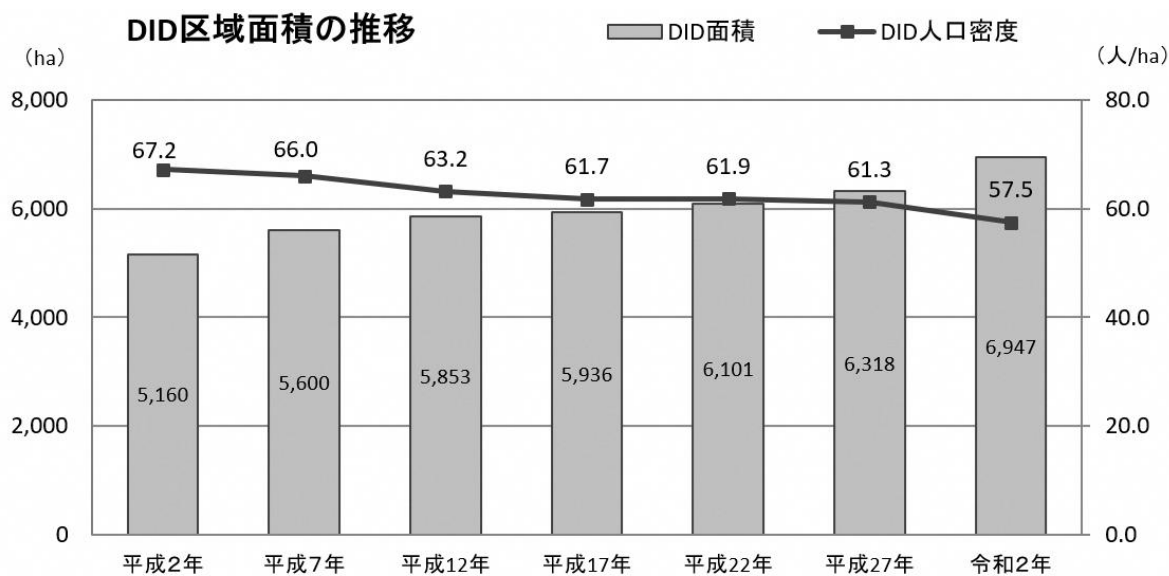
また、現在は、中央公民館や図書館といった生涯学習施設のほか、藩政期から受け継ぐ、能楽をはじめとする様々な芸能、金箔、漆芸、金工などの伝統工芸に関する施設、日本海側初の国立美術館である国立工芸館、県立歴史博物館をはじめとする学術文化に関する施設、金沢 21 世紀美術館や県立音楽堂など、現代アートやクラシック音楽など新旧の芸術文化に関する施設が中心市街地に集積しており、中心市街地は、金沢市の文化の中心地としての役割も担っています。

[2] 地域の現状分析

(1) 人口動態

① D I D 区域（人口集中地区）の推移

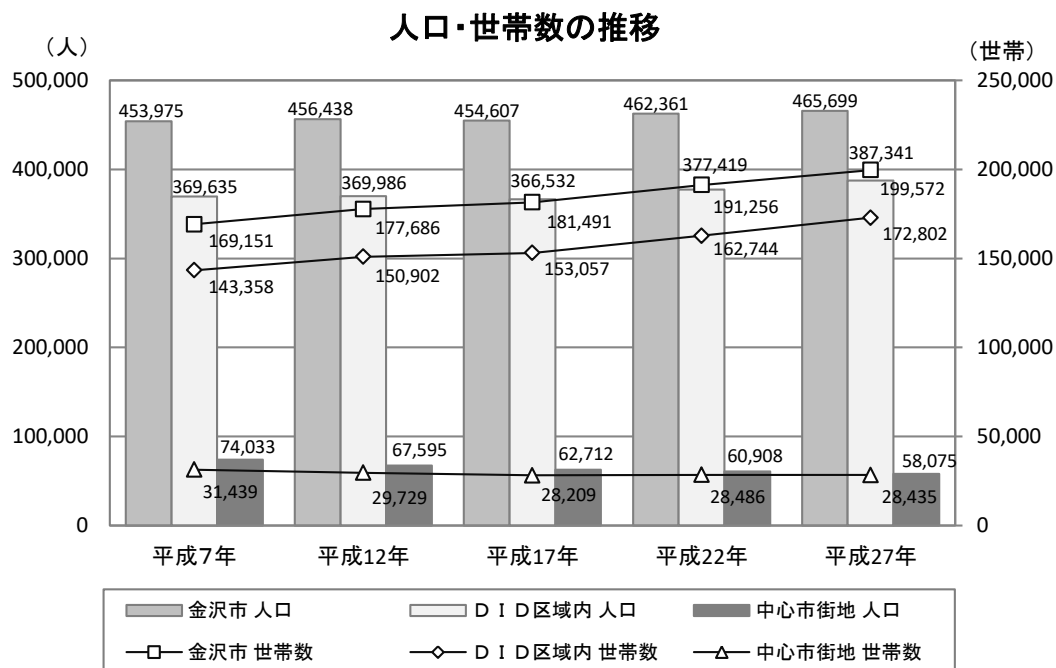
市街地の外延化（住宅や商業施設の郊外立地）が進んでいます。



出所：総務省『国勢調査』

② 居住人口とその推移

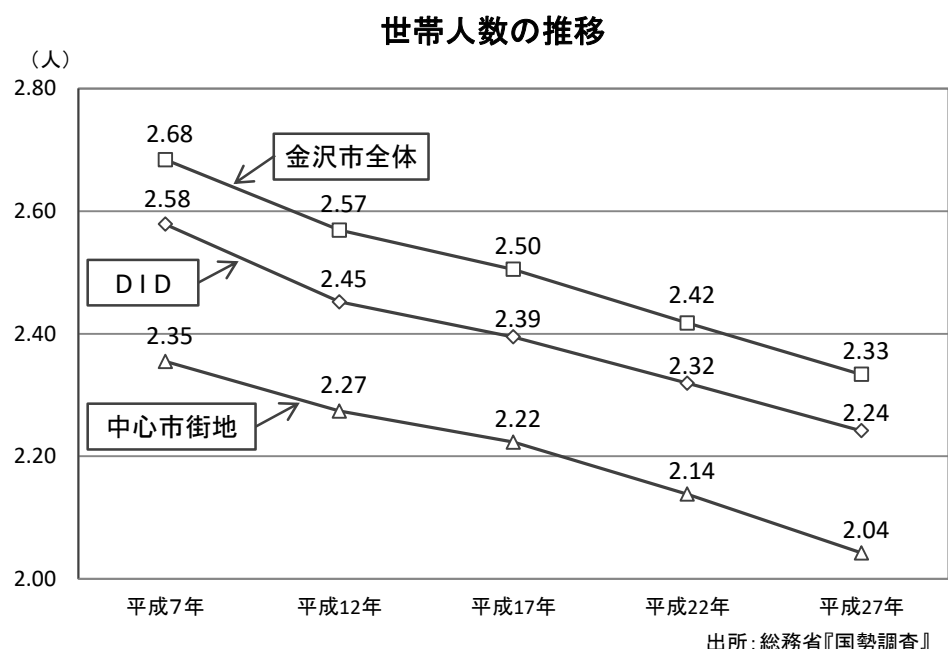
市全体の人口及び世帯数は増加傾向であるのに対し、
中心市街地の人口及び世帯数は減少が続いています。



出所：総務省『国勢調査』

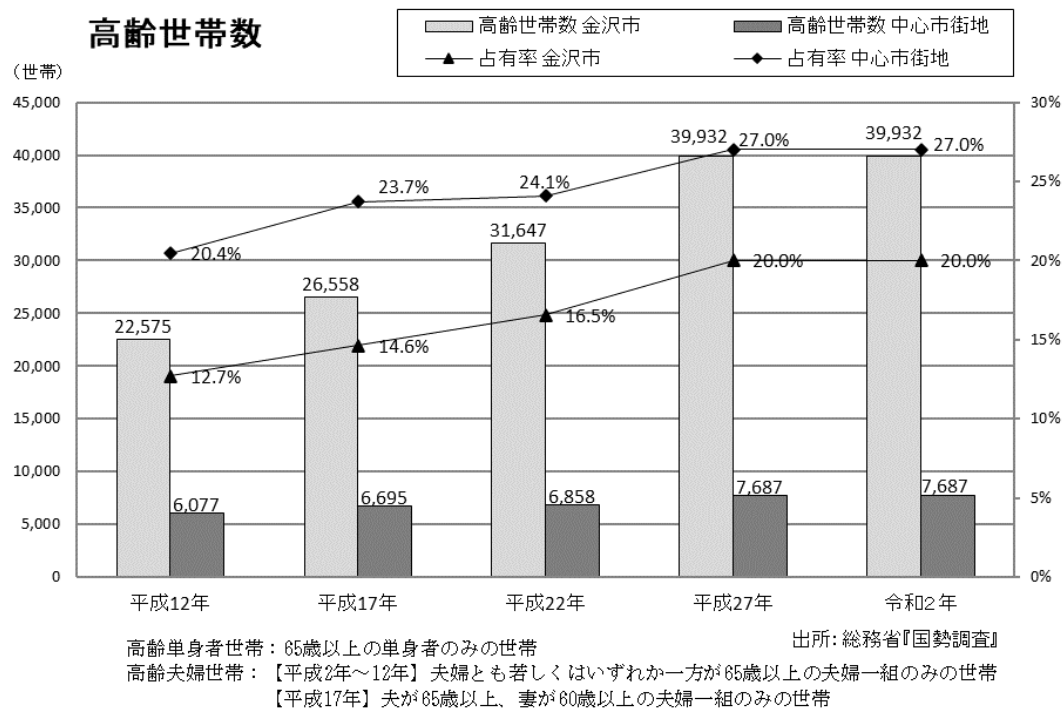
③ 世帯人員の推移

市全体やDID区域の世帯人数と比較して、小規模な世帯が多く世帯人員の減少も続いています。



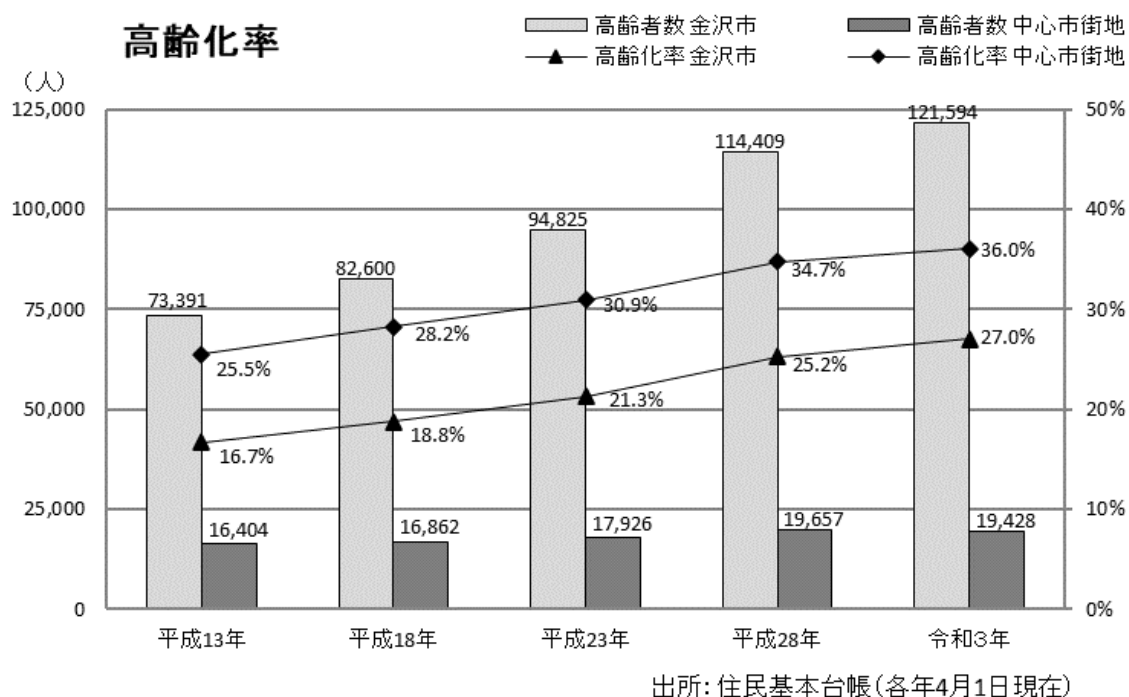
④ 高齢世帯数

金沢市における高齢世帯の割合は増加しており、中心市街地における全体の世帯に占める割合も増加しています。



⑤ 高齢化率

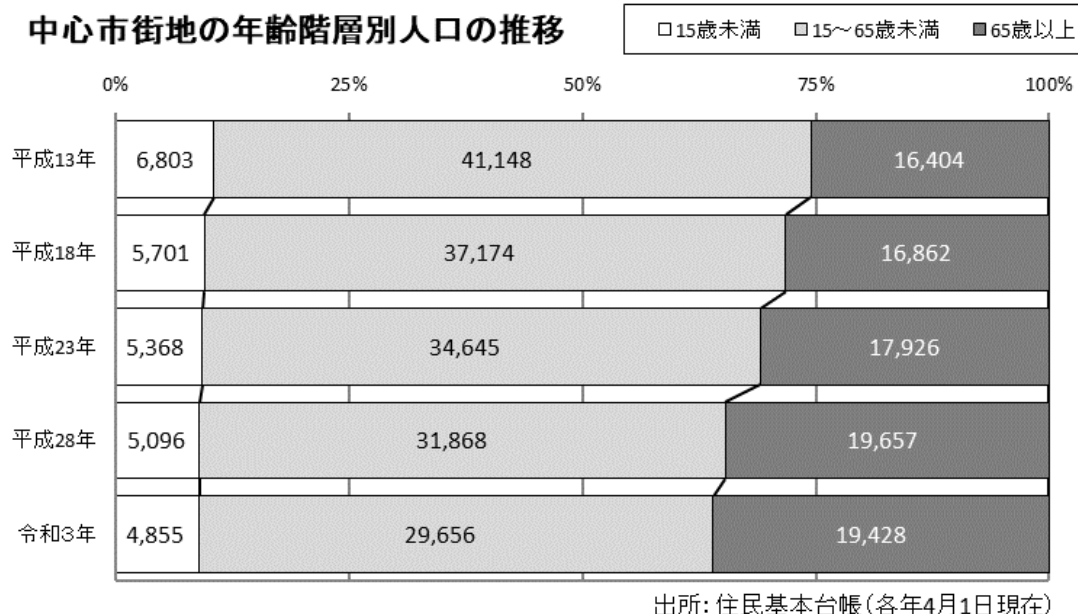
超高齢化(高齢化率 21%以上)が進展し続けています。



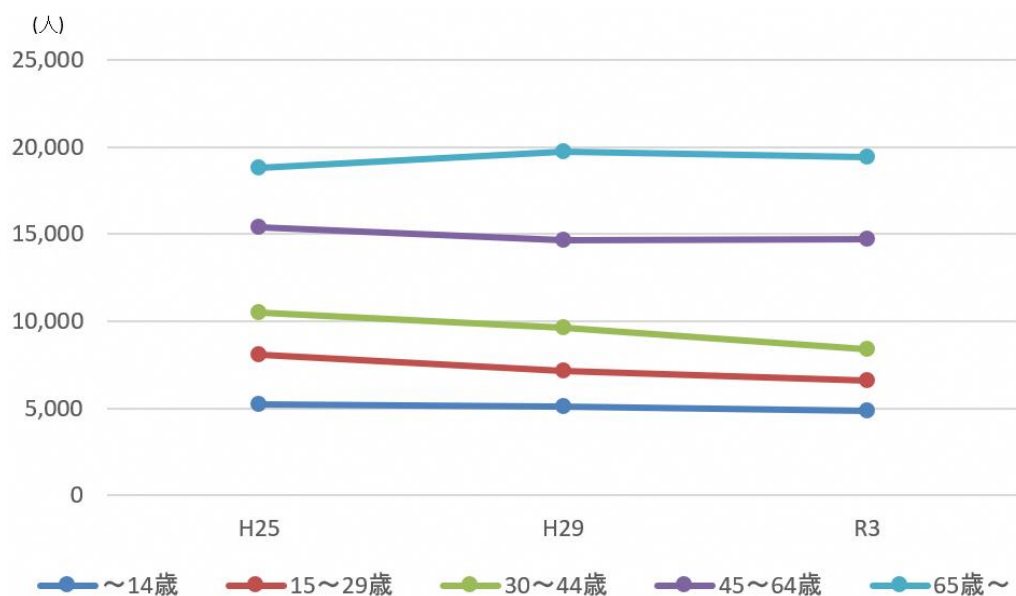
⑥ 年齢階層別人口の推移

中心市街地の住民の3人に1人以上は、65歳以上です。
15歳未満人口、15歳以上65歳未満人口は減少し続けており、
この20年間で64.0%にまで減少しました。

中心市街地の年齢階層別人口の推移



生産年齢人口（15 歳以上 65 歳未満）を細分化して年齢階層別人口の推移を見ると、特に 15 歳以上 45 歳未満の階層において減少傾向が強くなっていることが分かります。



	中心市街地				全市			
	H25	H29	R3	H25⇒R3	H25	H29	R3	H25⇒R3
～14歳	5,217	5,076	4,855	93.1%	61,840	60,228	56,968	92.1%
15～29歳	8,080	7,150	6,567	81.3%	71,820	70,235	68,650	95.6%
30～44歳	10,475	9,630	8,371	79.9%	98,084	92,613	81,070	82.7%
45～64歳	15,418	14,616	14,718	95.5%	115,359	114,189	121,582	105.4%
65歳～	18,782	19,711	19,428	103.4%	103,257	116,305	121,594	117.8%
合計	57,972	56,183	53,939	93.0%	450,360	453,570	449,864	99.9%

出所：住民基本台帳(毎年4月1日現在)

⑦ 従業・通学の状況

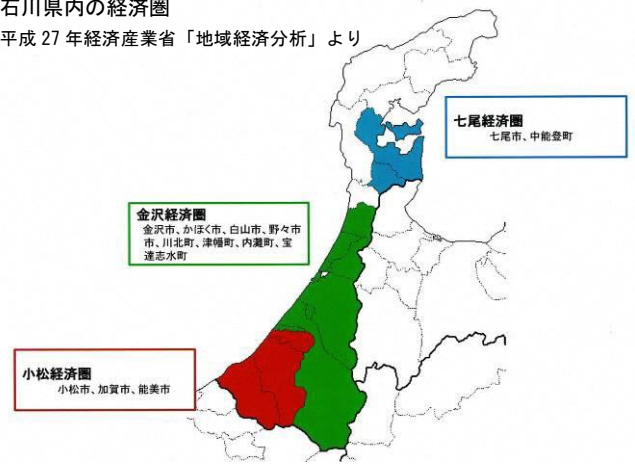
金沢市を中心とした都市雇用圏が形成されています。

石川県内における他市町の金沢市への通勤通学者の状況は、下表のとおりです。そのうち、通勤通学率が15%を超える地域が、金沢市を中心に社会的・経済的に密接な関係を有する都市雇用圏（金沢経済圏*）と定義されます。

金沢経済圏のうち、宝達志水町、川北町を除く4市2町は、石川中央都市圏を構成し、多様な分野の連携に取り組んでいます。

石川県内の経済圏

平成27年経済産業省「地域経済分析」より



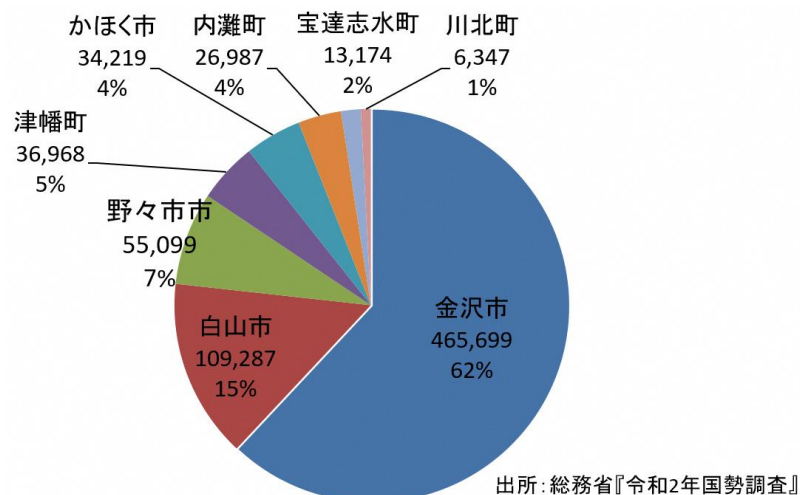
（*）「日本の都市雇用圏設定基準」（金本良嗣・徳岡一幸『応用地域学研究』No. 7, 1-15, (2002)）による。

* 「日本の都市圏設定基準」（金本良嗣・徳岡一幸『応用地域学研究』No. 7, 1-15, (2002)）

石川県内市町の金沢市への通勤通学状況（平成22年国勢調査）

市町名	通勤通学率	人口	市町名	通勤通学率	人口
金沢市	80.3%	462,361	野々市市	35.9%	51,885
七尾市	2.2%	57,900	川北町	22.2%	6,147
小松市	6.3%	108,433	津幡町	44.3%	36,940
輪島市	0.5%	29,858	内灘町	50.6%	26,927
珠洲市	0.2%	16,300	志賀町	2.3%	22,216
加賀市	2.8%	71,887	宝達志水町	15.1%	14,277
羽咋市	9.5%	23,032	中能登町	4.4%	18,535
かほく市	28.2%	34,651	穴水町	1.3%	9,735
白山市	28.7%	110,459	能登町	0.5%	19,565
能美市	11.6%	48,680	金沢市への通勤通学率15%以上の市町計		743,647

金沢経済圏における人口比率



(2) 経済活力関係

中心市街地には、都心軸沿線に位置する百貨店に加え、片町商店街や堅町商店街、香林坊商店街といった買回品主体の広域型商店街があり、百貨店の商圈距離は 50 km 程度（車で 60 分以内）、広域型商店街の商圈距離は 20 km 程度（車で 30 分以内）と考えられます*。平成 14 年消費者購買動向調査において、金沢市の中心市街地での購買率が 10% 以上の市町村は、20～30 km 圏内に位置しているため、中心市街地の商業集積の商圈は金沢経済圏と同一範囲にあり、商圈人口は 74 万人程度であると考えられます。

金沢経済圏内における小売商業や飲食業の、中心市街地における占有率は下表のとおりであり、小売業のうち衣服や靴などの買回品、宿泊業や飲食業において高い占有率を有しているものの、占有率は全体的に低下し続けています。

*参考 「すぐ応用できる商圈と売上高予測」市原実著、同友館
中小企業事業団編『共同店舗における複合化商業施設の対応について』



■令和元年経済センサス 調査結果

	小売業		宿泊業		飲食店	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
金沢市	4,232	32,305	173	3,369	2,950	21,534
中活区域内	558 (9.2%)	3,229 (6.8%)	35 (13.0%)	1,423 (33.8%)	865 (22.2%)	5,065 (17.8%)
中活区域外	3,674 (60.9%)	29,076 (61.2%)	138 (51.3%)	1,946 (46.2%)	2,085 (53.4%)	16,469 (58.0%)
かほく市	291 (4.8%)	1,941 (4.1%)	3 (1.1%)	88 (2.1%)	113 (2.9%)	754 (2.7%)
白山市	718 (11.9%)	5,091 (10.7%)	71 (26.4%)	590 (14.0%)	367 (9.4%)	2,368 (8.3%)
野々市市	417 (6.9%)	4,858 (10.2%)	8 (3.0%)	49 (1.2%)	273 (7.0%)	2,741 (9.6%)
川北町	25 (0.4%)	516 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (0.2%)	50 (0.2%)
津幡町	157 (2.6%)	1,583 (3.3%)	4 (1.5%)	21 (0.5%)	80 (2.1%)	504 (1.8%)
内灘町	113 (1.9%)	759 (1.6%)	3 (1.1%)	20 (0.5%)	83 (2.1%)	366 (1.3%)
宝達志水町	80 (1.3%)	449 (0.9%)	7 (2.6%)	76 (1.8%)	27 (0.7%)	94 (0.3%)
	6,033	47,502	269	4,213	3,901	28,411

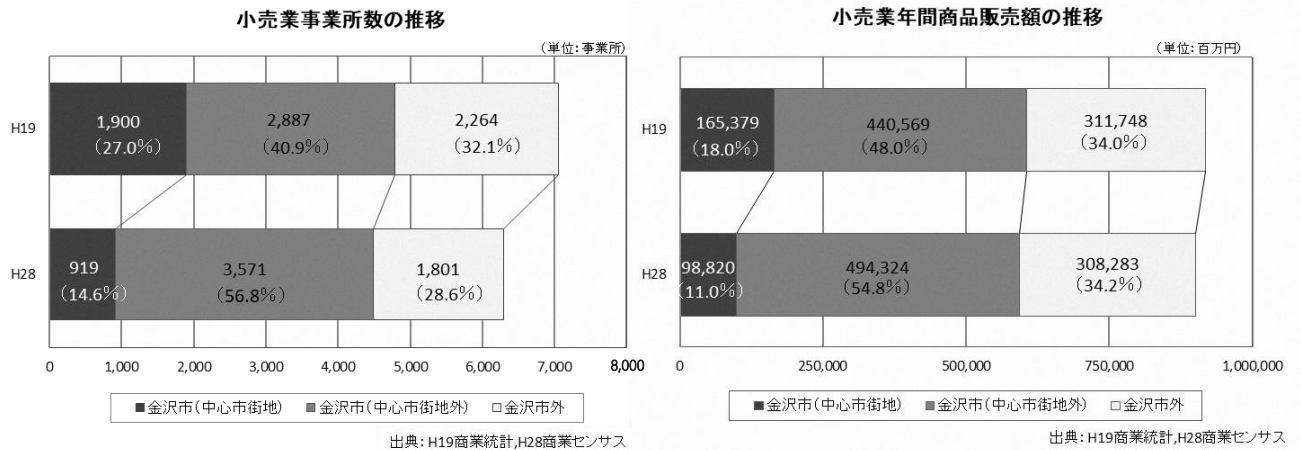
■小売業内訳

	56 各種商品小売業（百貨店・総合スーパー等）		57 織物・衣服・身の回り品小売業	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
金沢市	13	1,673	657	3,030
中活区域内	2 (9.5%)	454 (14.7%)	191 (20.7%)	854 (19.7%)
中活区域外	11 (52.4%)	1,219 (39.4%)	466 (50.5%)	2,176 (50.3%)
かほく市	1 (4.8%)	216 (7.0%)	66 (7.2%)	312 (7.2%)
白山市	2 (9.5%)	343 (11.1%)	82 (8.9%)	304 (7.0%)
野々市市	2 (9.5%)	177 (5.7%)	79 (8.6%)	548 (12.7%)
川北町	1 (4.8%)	230 (7.4%)	2 (0.2%)	6 (0.1%)
津幡町	2 (9.5%)	454 (14.7%)	20 (2.2%)	83 (1.9%)
内灘町	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (1.0%)	28 (0.6%)
宝達志水町	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (0.9%)	19 (0.4%)
	21	3,093	923	4,330

	58 飲食料品小売業		59～61 その他の小売業	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
金沢市	1,179	11,124	2,383	16,478
中活区域内	136 (8.0%)	891 (5.5%)	229 (6.8%)	1,030 (4.3%)
中活区域外	1,043 (61.4%)	10,233 (63.6%)	2,154 (63.5%)	15,448 (64.4%)
かほく市	78 (4.6%)	528 (3.3%)	149 (4.4%)	885 (3.7%)
白山市	237 (13.9%)	1,821 (11.3%)	397 (11.7%)	2,623 (10.9%)
野々市市	92 (5.4%)	1,495 (9.3%)	244 (7.2%)	2,638 (11.0%)
川北町	8 (0.5%)	177 (1.1%)	14 (0.4%)	103 (0.4%)
津幡町	48 (2.8%)	378 (2.3%)	87 (2.6%)	668 (2.8%)
内灘町	32 (1.9%)	370 (2.3%)	72 (2.1%)	361 (1.5%)
宝達志水町	26 (1.5%)	198 (1.2%)	46 (1.4%)	232 (1.0%)
	1,700	16,091	3,392	23,988

○ 金沢経済圏の小売業事業所数・年間商品販売額

中心市街地の小売業事業所数は金沢経済圏の約 15%を占めていますが、その比率は減少傾向にあります。



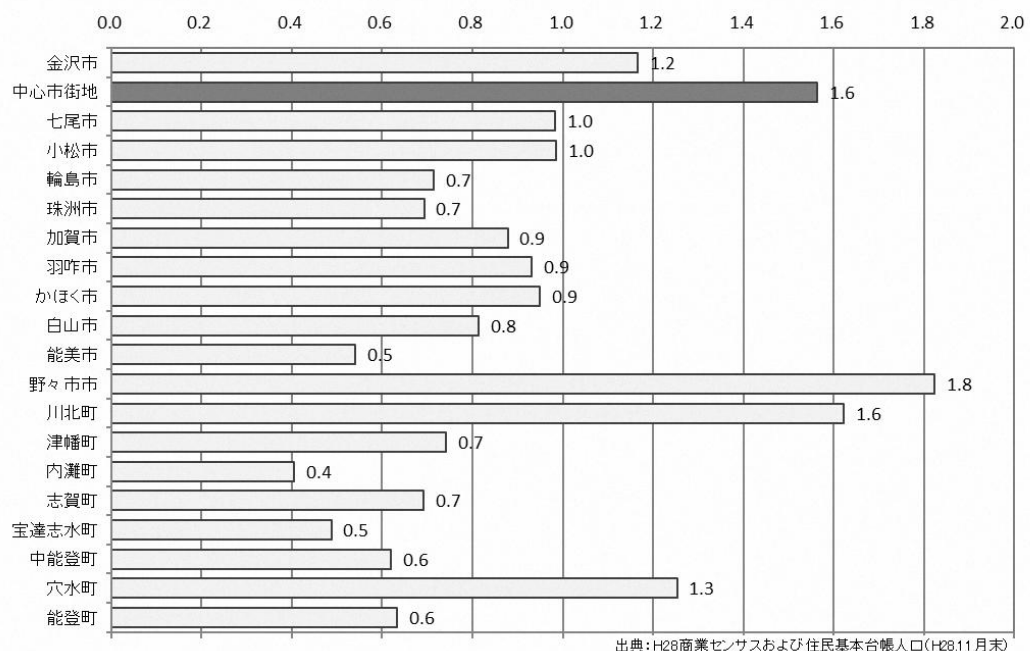
中心市街地の小売店には、中心市街地の外からの消費者が買い物に訪れています。

商圈を測る指標のひとつである小売業中心性指数を見ると、中心市街地の指数は 1.6 です。この指数は、地域の小売業がその県の顧客をどれだけ吸収しているかを示しており、1 以上なら地域外の消費者が買い物目的で訪れていると判断されます。

$$\text{小売中心性指数} = \text{商業人口}^* \div \text{人口}$$

* 商業人口 = 小売業年間商品販売額 ÷ 都道府県内人口 1 人当り小売業年間商品販売額

石川県内の市町の小売業中心性指数



○ 商業集積地区別の状況

中心市街地の商店街（商業集積地区）は、事業所数、年間商品販売額等減少傾向にあります。

商業集積地区の状況（中心市街地）

(単位:件、人、百万円、㎡)

	事業所数			従業者数			年間商品販売額			売場面積		
	H19	H26	増減率	H19	H26	増減率	H19	H26	増減率	H19	H26	増減率
武蔵商店街	58	57	▲1.7%	550	454	▲17.5%	23,685	19,345	▲18.3%	34,322	33,966	▲1.0%
近江町市場商店街	118	104	▲11.9%	581	502	▲13.6%	11,782	8,471	▲28.1%	5,247	8,277	57.7%
尾山神社前商店街	16	11	▲31.3%	74	37	▲50.0%	552	263	▲52.4%	729	472	▲35.3%
せせらぎ通り商店街	43	22	▲48.8%	115	61	▲47.0%	1,909	724	▲62.1%	2,341	1,034	▲55.8%
香林坊商店街	90	80	▲11.1%	864	620	▲28.2%	41,381	28,892	▲30.2%	40,736	35,731	▲12.3%
木倉町商店街	13	8	▲38.5%	29	16	▲44.8%	303	125	▲58.7%	468	304	▲35.0%
片町商店街	128	61	▲52.3%	603	325	▲46.1%	8,443	4,234	▲49.9%	15,512	7,499	▲51.7%
柿木島振興会	9	5	▲44.4%	18	44	144.4%	304	1,284	322.4%	407	1,289	216.7%
広坂振興会	24	13	▲45.8%	133	63	▲52.6%	2,832	585	▲79.3%	3,405	1,781	▲47.7%
堅町商店街	132	61	▲53.8%	506	291	▲42.5%	7,008	4,780	▲31.8%	13,466	7,665	▲43.1%
新堅町商店街	35	24	▲31.4%	84	46	▲45.2%	644	376	▲41.6%	1,962	846	▲56.9%
英町商店街	23	16	▲30.4%	56	29	▲48.2%	348	162	▲53.4%	1,139	657	▲42.3%
玉川町通り商店街	24	19	▲20.8%	56	51	▲8.9%	596	599	0.5%	915	793	▲13.3%
長土堀商店街	14	9	▲35.7%	70	40	▲42.9%	363	168	▲53.7%	249	202	▲18.9%
駅前別院通商店街	43	23	▲46.5%	168	82	▲51.2%	2,120	1,834	▲13.5%	4,606	2,452	▲46.8%
横安江町商店街	48	26	▲45.8%	133	64	▲51.9%	1,153	439	▲61.9%	3,781	1,513	▲60.0%
彦三商店街	6	2	▲66.7%	15	4	▲73.3%	133	X	—	307	X	—
尾張町商店街	51	24	▲52.9%	164	59	▲64.0%	3,268	418	▲87.2%	3,984	1,450	▲63.6%
橋場町商店街	12	4	▲66.7%	49	25	▲49.0%	529	X	—	765	X	—
兼六大通り商店街	23	14	▲39.1%	120	65	▲45.8%	971	371	▲61.8%	1,440	632	▲56.1%
石引商店街	83	50	▲39.8%	408	236	▲42.2%	5,546	4,759	▲14.2%	4,110	2,557	▲37.8%
寺町台地区商店街	62	21	▲66.1%	210	68	▲67.6%	1,472	555	▲62.3%	3,223	822	▲74.5%
新野町商店街	7	—	—	42	—	—	1,032	—	—	339	—	—
野町弥生地区商店街	78	45	▲42.3%	264	117	▲55.7%	2,109	816	▲61.3%	4,597	1,680	▲63.5%
東山商店街	30	23	▲23.3%	109	71	▲34.9%	942	677	▲28.1%	1,089	1,897	74.2%
金沢百番街	132	83	▲37.1%	740	459	▲38.0%	9,604	7,473	▲22.2%	5,925	4,716	▲20.4%
小橋商店街	21	9	▲57.1%	67	35	▲47.8%	708	324	▲54.2%	1,097	490	▲55.3%
ポルテ金沢	11	12	9.1%	63	56	▲11.1%	1,924	1,129	▲41.3%	893	1,056	18.3%
金沢フォーラス	52	73	40.4%	273	484	77.3%	6,529	7,947	21.7%	15,510	8,249	▲46.8%
中心市街地 合計	1,386	899	▲35.1%	6,564	4,404	▲32.9%	138,190	96,750	▲30.0%	172,564	128,030	▲25.8%

出所:経済産業省『商業統計調査』

大規模集客施設の状況

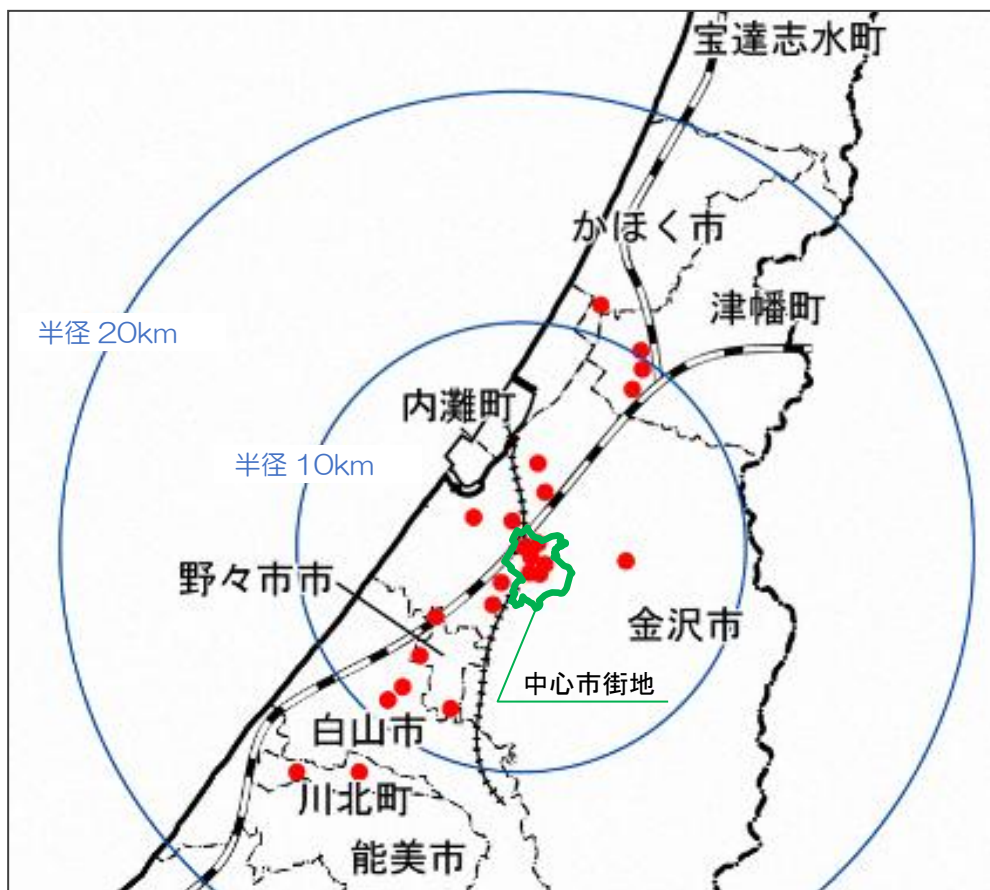
	金沢市全体		中心市街地		中心市街地以外	
	店舗数	店舗面積計	店舗数	店舗面積計	店舗数	店舗面積計
1千～3千㎡	76	151,579	12	22,886	64	128,693
3千～5千㎡	28	113,237	7	26,970	21	86,267
5千～1万㎡	10	57,548	3	17,401	7	40,147
1万～2万㎡	9	132,822	4	51,081	5	81,741
2万㎡以上	4	112,258	2	64,300	2	47,958
	127	567,444	28	182,638	99	384,806

	周辺都市全体		白山市		かほく市	
	店舗数	店舗面積計	店舗数	店舗面積計	店舗数	店舗面積計
1千～3千㎡	45	82,087	9	16,869	8	15,993
3千～5千㎡	11	43,798	4	15,268		
5千～1万㎡	15	108,900	5	35,427	1	8,608
1万～2万㎡	6	71,052	1	14,280		
2万㎡以上	6	144,231	3	58,091	1	38,608
	83	450,068	22	139,935	10	63,209

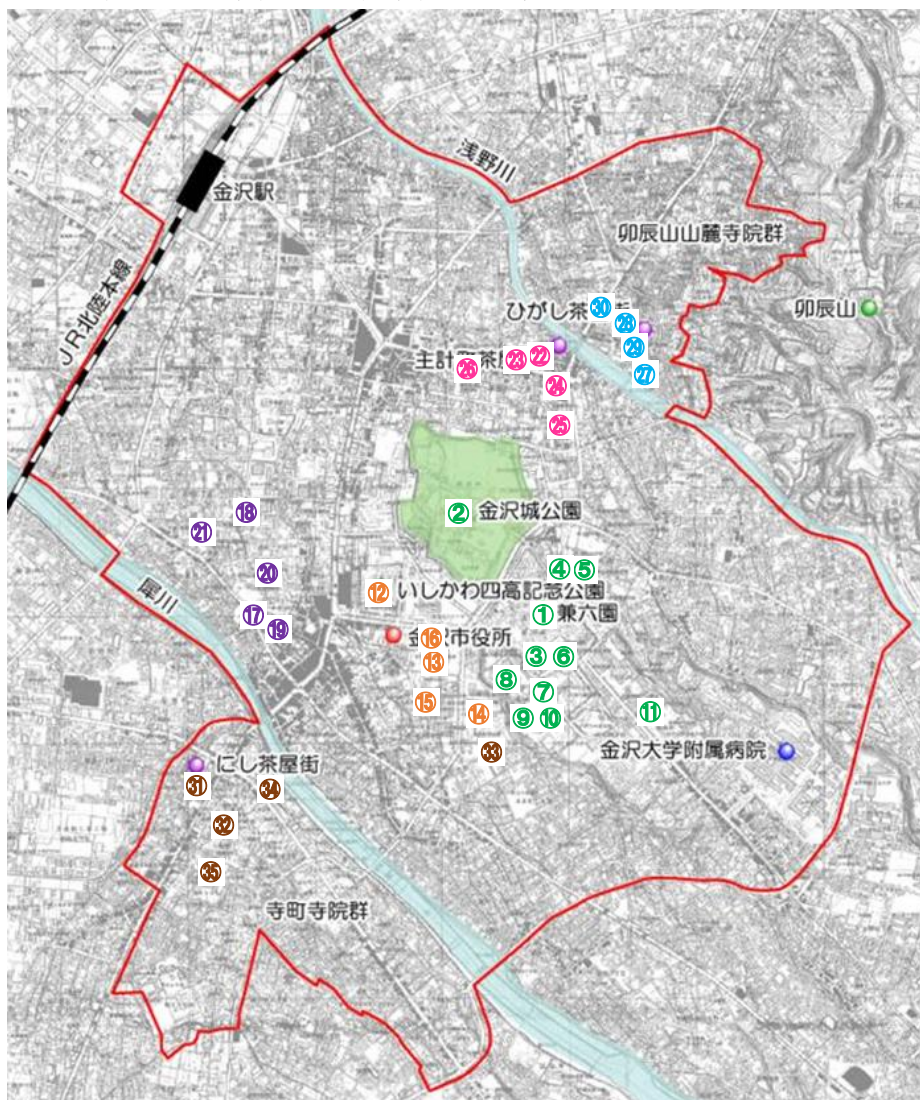
	野々市市		津幡町		内灘町	
	店舗数	店舗面積計	店舗数	店舗面積計	店舗数	店舗面積計
1千～3千㎡	18	31,349	7	11,173	3	6,703
3千～5千㎡	7	28,530				
5千～1万㎡	9	64,865				
1万～2万㎡	2	20,701	2	24,120	1	11,951
2万㎡以上	1	26,512	1	21,020		
	37	171,957	10	56,313	4	18,654

出所：石川県『大規模小売店舗一覧(R3.2.1現在)』から作成

店舗面積 1 万㎡以上の施設の立地状況



○中心市街地に存在する観光資源、観光入込客数

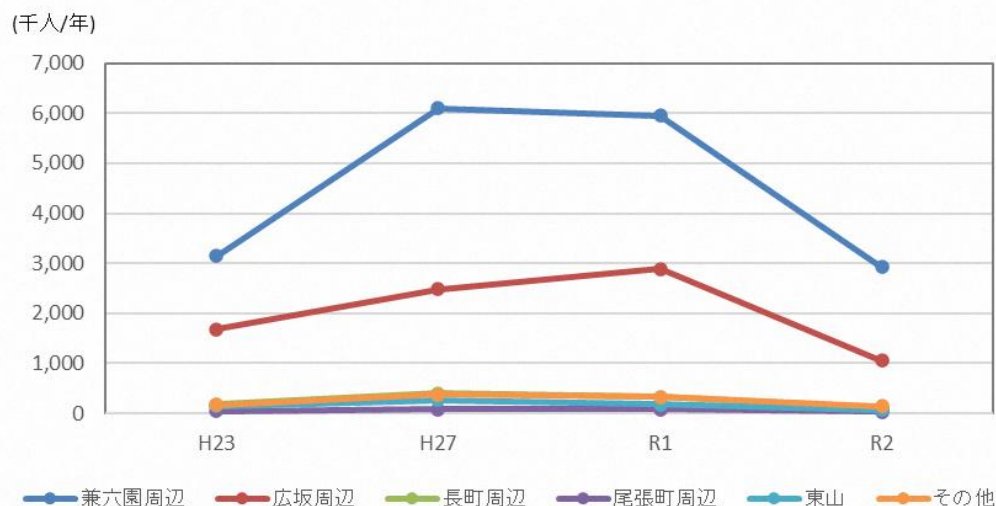


	施設名称	H27利用者数	R1利用者数	R2利用者数		施設名称	H27利用者数	R1利用者数	R2利用者数
兼六園周辺	① 兼六園	2,887,894	2,754,074	1,186,538	長町周辺	⑩ 老舗記念館	49,790	32,245	15,469
	② 金沢城公園	2,261,766	2,332,485	1,252,970		⑪ 足軽資料館	81,250	53,890	22,765
	③ 成巽閣	112,256	80,162	36,768		⑫ 前田土佐守家資料館	29,148	30,139	14,917
	④ 加賀友禅伝統産業会館	25,048	16,966	7,128		⑬ 武家屋敷跡野村家	227,118	209,365	57,828
	⑤ 西田家庭園玉泉園	15,370	6,706	1,411		⑭ 長町友禅館	10,004	3,768	797
	⑥ 県立伝統産業工芸館	118,948	147,002	65,749	尾張町周辺	⑮ 泉鏡花記念館	24,548	20,962	9,652
	⑦ 県立能楽堂	48,262	50,610	22,733		⑯ 金沢蓄音器館	19,423	20,461	9,604
	⑧ 県立美術館	444,309	373,571	240,453		⑰ 金沢文芸館	12,225	9,042	3,645
	⑨ 県立歴史博物館	157,575	156,461	97,456		⑱ 寺島蔵人邸	13,896	9,773	4,880
	⑩ 藩老本多蔵品館	19,751	19,293	12,838		⑲ 町民文化館	17,680	16,862	6,423
	⑪ 金沢くらしの博物館	6,764	12,938	5,412		⑳ 徳田秋聲記念館	10,479	9,310	4,398
広坂周辺	⑫ 石川四高記念文化交流館	183,617	204,659	49,094	東山	㉑ 志摩	159,127	107,112	43,131
	⑬ 金沢21世紀美術館	2,213,780	2,608,037	971,256		㉒ 懷華楼	63,893	24,501	9,780
	⑭ 中村記念美術館	20,887	19,529	10,075		㉓ 安江金箔工芸館	33,300	34,169	12,722
	⑮ 金沢ふるさと偉人館	22,169	19,001	11,507		㉔ 西茶屋資料館	66,549	68,864	30,436
	⑯ 金沢能楽美術館	37,173	31,630	11,364	その他	㉕ 妙立寺	252,305	178,953	75,500
						㉖ 鈴木大拙館	58,875	79,839	39,265
						㉗ 谷口吉郎・吉生記念金沢建築館	—	30,964	18,296
						㉘ 金沢未来のまち創造館	—	—	—

令和元年度にはコロナの影響が及び始めており、それまで順調に増加していた各施設の利用者数に陰りが見えてきています。

中心市街地内に立地している観光施設の利用者数の推移を見ると、平成 23 年度から平成 27 年度にかけてはほとんどの施設において大きく増加していましたが、平成 27 年度から令和 2 年度にかけては減少した施設が多くなりました。

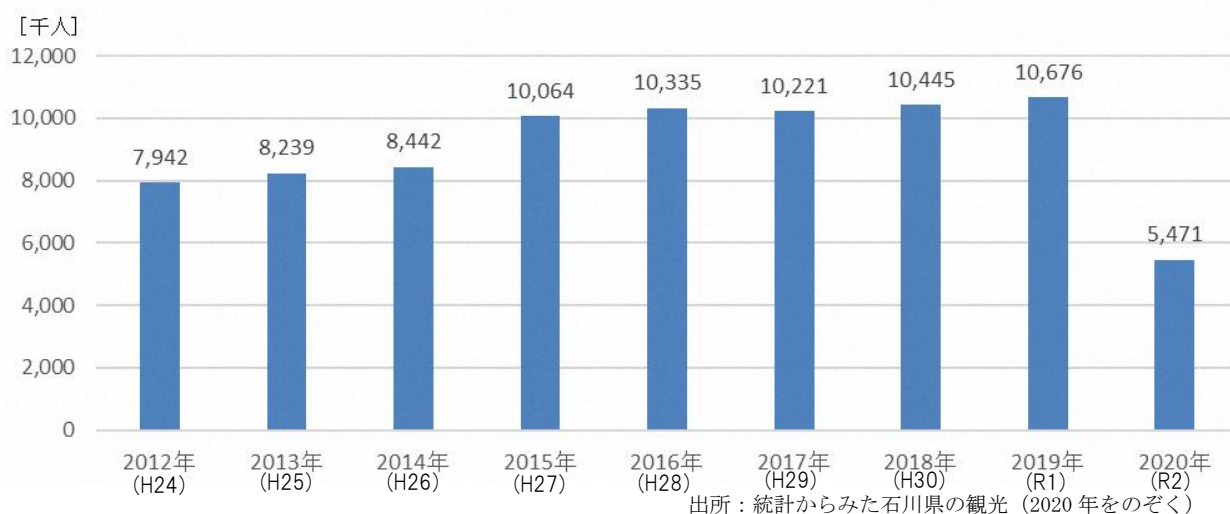
また、地域別に見ると、国外を含めた県外から多くの観光客が来訪する兼六園周辺において特に大きな変化が見られました。



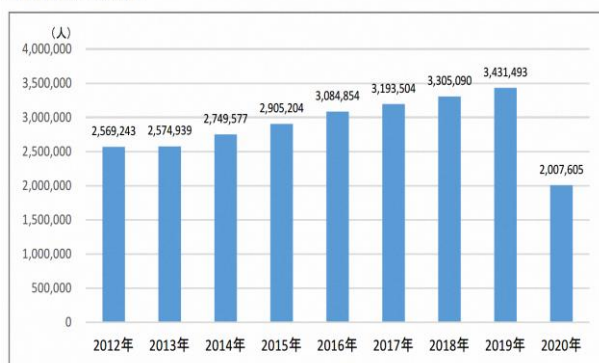
出所：金沢市観光調査結果報告書

《参考》

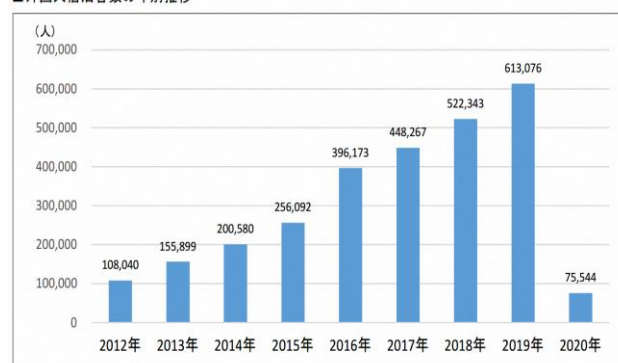
■金沢地域（金沢市、かほく市、白山市(旧松任市、旧美川町)、野々市市、津幡町、内灘町）の観光入込客数



■宿泊客数の年別推移



■外国人宿泊客数の年別推移



出所：金沢市観光調査結果報告書

○都市機能の集積状況（計画策定時点）

■公共公益施設の概要

（ ）内は占有率

施設分類	施設数	うち中心市街地に立地	備考
主要公共施設	12	5 (41.7%)	行政機関
文化・教養施設	24	13 (54.2%)	図書館等
美術館・記念館・資料館等	31	23 (74.2%)	
スポーツ施設	49	1 (2.0%)	体育館、運動公園等
病院	43	14 (32.6%)	
福祉・保健施設	31	7 (22.6%)	
小学校	56	8 (14.3%)	
中学校	27	4 (14.8%)	
高校	22	3 (13.6%)	高専含む
大学	6	0 (0.0%)	
市民センター	16	2 (12.5%)	
公共公益施設 合計	317	80 (25.2%)	

■主要公共施設

	施設名
中心市街地	1 金沢市役所
	2 日本郵便株式会社北陸支社
	3 金沢国税局
	4 北陸農政局
	5 金沢北年金事務所
中心市街地以外	6 金沢南年金事務所
	7 金沢地方法務局
	8 金沢税務署
	9 北陸財務局
	10 国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所
	11 北陸信越運輸局石川運輸支局
	12 石川県庁・石川県警察本部

■市民センター

	施設名
中心市街地	1 本町市民センター
	2 近江町市民センター
中心市街地以外	3 森本市民センター
	4 金石市民センター
	5 犀川市民センター
	6 安原市民センター
	7 額市民センター
	8 押野市民センター
	9 浅川市民センター
	10 泉野市民センター
	11 元町市民センター
	12 新神田市民センター
	13 駅西市民センター
	14 湊市民センター
	15 内川自動交付機コーナー
	16 湯涌自動交付機コーナー

■文化・教養施設

	施設名
中心市街地	1 玉川図書館・近世史料館
	2 玉川こども図書館
	3 中央公民館長町館
	4 中央公民館彦三館
	5 女性センター
	6 長土塙青少年交流センター
	7 西町教育研修館
	8 近江町交流プラザ
	9 教育プラザ此花
	10 金沢ボランティア大学校
	11 金沢国際交流財団
	12 金沢学生のまち市民交流館
	13 金沢未来のまち創造館
中心市街地以外	14 金沢海みらい図書館
	15 玉川図書館城北分館
	16 泉野図書館
	17 平和町児童図書館
	18 教育プラザ富樫
	19 城北児童会館
	20 金沢職人大学校
	21 キゴ山ふれあい研修センター
	22 土子原こども野外広場
	23 甥杉少年の森
	24 金沢市俵芸術交流スタジオ

大学

位置	店舗名称
中心市街地以外	1 金沢大学
	2 金沢星稜大学・金沢星稜大学女子短期大学部
	3 金沢学院大学・金沢学院短期大学
	4 金沢美術工芸大学
	5 北陸学院大学・北陸学院短期大学部
	6 北陸大学

美術館・記念館・資料館等

	施設名
中心市街地	1 金沢21世紀美術館
	2 徳田秋聲記念館
	3 泉鏡花記念館
	4 金沢歌劇座
	5 金沢市文化ホール
	6 金沢市アートホール
	7 金沢蓄音器館
	8 金沢文芸館
	9 寺島蔵人邸
	10 前田土佐守家資料館
	11 中村記念美術館
	12 金沢能楽美術館
	13 金沢ふるさと偉人館
	14 金沢くらしの博物館
	15 金沢市老舗記念館
	16 旧加賀藩士高田家跡
	17 金沢市足軽資料館
	18 金沢市西茶屋資料館
	19 安江金箔工芸館
	20 鈴木大拙館
	21 柳宗理記念デザイン研究所
	22 金澤町家情報館
	23 谷口吉郎・吉生記念金沢建築館
中心市街地以外	24 室生犀星記念館
	25 金沢市民芸術村
	26 金沢卯辰山工芸工房
	27 金沢湯涌創作の森
	28 金沢湯涌江戸村
	29 金沢湯涌夢二館
	30 埋蔵文化財収蔵庫
	31 埋蔵文化財センター

スポーツ施設

	施設名
中心市街地	1 中央市民体育館
	2 大徳テニスコート
中心市街地以外	3 湊運動公園
	4 湊野球場
	5 城北市民体育館
	6 城西市民体育館
	7 大桑運動広場
	8 田上運動広場
	9 城東市民体育館
	10 城東テニスコート
	11 市民サッカー場・本田圭佑クライフコート
	12 森本市民体育館
	13 東金沢スポーツ広場
	14 市民野球場
	15 浅野川市民体育館
	16 専光寺ソフトボール場
	17 西金沢テニスコート
	18 西部市民体育会館・プール
	19 西部市民憩いの家
	20 西金沢少年運動広場
	21 額谷ふれあい体育館
	22 陸上競技場
	23 球技場
	24 総合体育館
	25 城南市民体育館
	26 久安運動広場
	27 額谷運動広場
	28 鳴和台市民体育会館・プール
	29 医王山スキー場
	30 障害者高齢者体育館
	31 森本こどもグラウンド
	32 伏見川スポーツ公園
	33 鞍月広場
	34 内川スポーツ広場
	35 城北市民テニスコート
	36 医王山運動広場
	37 法光寺運動広場
	38 戸室スポーツ広場
	39 安原スポーツ広場
	40 金沢テクノパーク運動広場
	41 加賀朝日町グラウンドゴルフ場
	42 伏見川グラウンド
	43 こなん水辺グラウンドゴルフ場
	44 金沢プール
	45 スポーツ交流広場
	46 ジュニアスポーツコート
	47 あめるんパーク
	48 専光寺ふれあいゴルフ広場
	49 栗崎ふれあいゴルフ広場

■病院

	施設名
中心市街地	1 国立大学法人金沢大学附属病院
	2 独立行政法人国立病院機構金沢医療センター
	3 社会医療法人財団松原愛育会松原病院
	4 医療法人社団和宏会大手町病院
	5 医療法人社団和宏会敬愛病院
	6 林病院
	7 金沢聖霊総合病院
	8 小池病院
	9 社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院
	10 川北病院
	11 医療法人社団金沢宗広病院
	12 石田病院
	13 鈴木レディースホスピタル
	14 伊藤病院
中心市街地以外	15 石川県立中央病院
	16 医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
	17 医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
	18 医療法人社団浅ノ川千木病院
	19 岡部病院
	20 金沢市立病院
	21 石川勤労者医療協会城北病院
	22 金沢赤十字病院
	23 十全病院
	24 石川県済生会金沢病院
	25 独立行政法人国立病院機構医王病院
	26 独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
	27 医療法人社団浅ノ川心臓血管センター金沢循環器病院
	28 かないわ病院
	29 金沢西病院
	30 結城病院
	31 みらい病院
	32 金沢有松病院
	33 青和病院
	34 国家公務員共済組合連合会北陸病院
	35 藤井脳神経外科病院
	36 すずみが丘病院
	37 医療法人財団医王会医王ヶ丘病院
	38 木島病院
	39 整形外科米澤病院
	40 安田内科病院
	41 石野病院
	42 石川療育センター
	43 金沢こども医療福祉センター

■福祉・保健施設

	施設名
中心市街地	1 金沢健康プラザ大手町
	2 金沢市福祉サービス公社
	3 松ヶ枝福祉館
	4 金沢福祉用具情報プラザ
	5 地域包括支援センターおおてまち
	6 地域包括支援センターさくらまち
	7 地域包括支援センターとびうめ
中心市街地以外	8 泉野福祉健康センター
	9 金沢保健所・駅西福祉健康センター
	10 元町福祉健康センター
	11 老人福祉センター万寿苑
	12 老人福祉センター松寿荘
	13 老人福祉センター鶴寿園
	14 老人福祉センター十一屋生きがい交流館
	15 卯辰山公園健康交流センター千寿閣
	16 地域包括支援センターきしかわ
	17 地域包括支援センターふくひさ
	18 地域包括支援センターかすが
	19 地域包括支援センターたがみ
	20 地域包括支援センターもろえ
	21 地域包括支援センターくらつき
	22 地域包括支援センターえきにしほんまち
	23 地域包括支援センターひろおか
	24 地域包括支援センターかみあらや
	25 地域包括支援センターきたづか
	26 地域包括支援センターみつくちしんまち
	27 地域包括支援センターながさか
	28 地域包括支援センターいずみの
	29 地域包括支援センターありまつ
	30 地域包括支援センターやましな
	31 地域包括支援センターまがえ

■小学校

		施設名
中心市街地	1	泉小学校
	2	兼六小学校
	3	中央小学校
	4	中央小学校芳育分校
	5	明成小学校
	6	馬場小学校
	7	森山町小学校
	8	犀桜小学校
中心市街地以外	9	中村町小学校
	10	十一屋小学校
	11	泉野小学校
	12	小立野小学校
	13	長田町小学校
	14	諸江町小学校
	15	浅野町小学校
	16	小坂小学校
	17	千坂小学校
	18	夕日寺小学校
	19	大浦小学校
	20	浅野川小学校
	21	鞍月小学校
	22	栗崎小学校
	23	大野町小学校
	24	金石町小学校
	25	大徳小学校
	26	戸板小学校
	27	緑小学校
	28	押野小学校
	29	米丸小学校
	30	三馬小学校
	31	富樫小学校
	32	額小学校
	33	内川小学校
	34	犀川小学校
	35	湯涌小学校
	36	田上小学校
	37	医王山小学校
	38	森本小学校
	39	花園小学校
	40	不動寺小学校
	41	三谷小学校
	42	南小立野小学校
	43	伏見台小学校
	44	扇台小学校
	45	木曳野小学校
	46	三和小学校
	47	長坂台小学校
	48	新神田小学校
	49	西南部小学校
	50	米泉小学校
	51	四十万小学校
	52	西小学校
	53	安原小学校
	54	杜の里小学校
	55	北陸学院小学校
	56	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

■中学校

		施設名
中心市街地	1	泉中学校
	2	紫錦台中学校
	3	小將町中学校・小將町特学分校
	4	北陸学院中学校
中心市街地以外	5	野田中学校
	6	城南中学校
	7	兼六中学校
	8	高岡中学校
	9	鳴和中学校
	10	長田中学校
	11	浅野川中学校
	12	金石中学校
	13	芝原中学校
	14	西南部中学校
	15	内川中学校
	16	犀生中学校
	17	医王山中学校
	18	森本中学校
	19	額中学校
	20	高尾台中学校
	21	緑中学校
	22	港中学校
	23	北鳴中学校
	24	大徳中学校
	24	清泉中学校
	25	星稜中学校
	26	金沢錦丘中学校
	27	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校

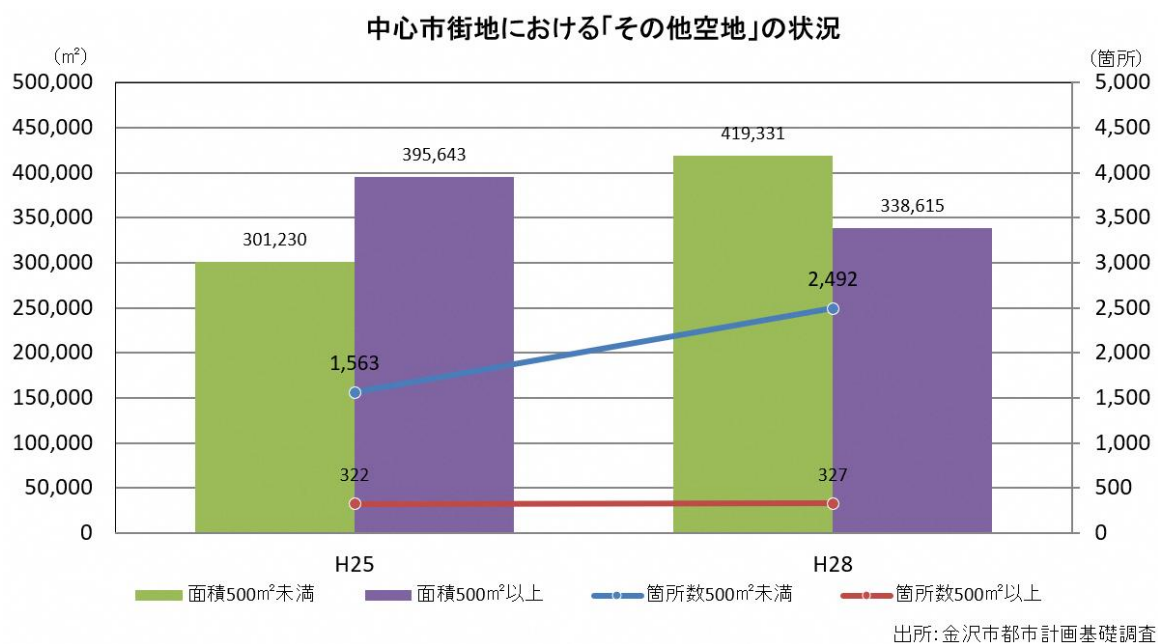
■高校

位置	店舗名称
中心市街地	1 北陸学院高等学校
	2 石川県立工業高等学校
	3 遊学館高等学校
中心市街地以外	4 石川県立金沢向陽高等学校
	5 石川県立金沢北陵高等学校
	6 星稜高等学校
	7 石川県立金沢桜丘高等学校
	8 石川県立金沢西高等学校
	9 金沢市立工業高等学校
	10 金沢龍谷高等学校
	11 石川県立金沢商業高等学校
	12 石川県立金沢中央高等学校
	13 金沢高等学校
	14 石川県立金沢伏見高等学校
	15 石川県立金沢二水高等学校
	16 石川県立金沢泉丘高等学校
	17 石川県立金沢錦丘高等学校
	18 国際高等専門学校
	19 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
	20 石川県立金沢辰巳丘高等学校
	21 金沢学院大学付属高等学校
	22 白山市立美川教育特区アットマーク国際高等学校

○土地利用の状況

① 低未利用地（都市計画基礎調査における「その他の空地」）

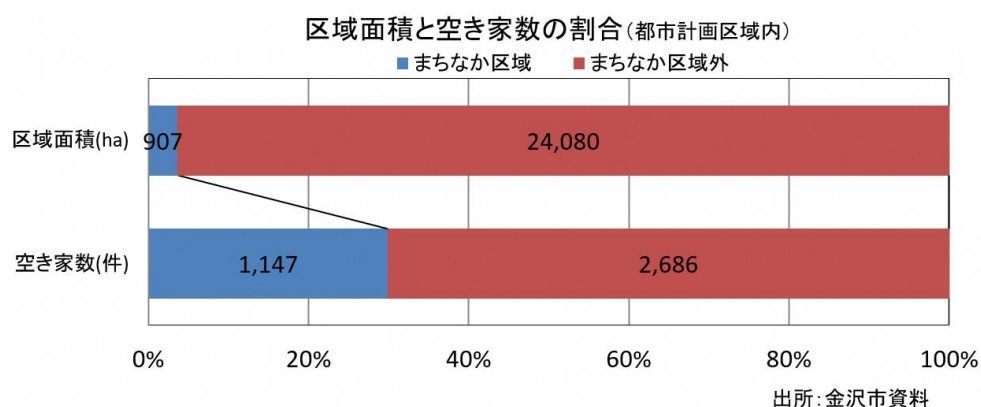
金沢市都市計画基礎調査では、北陸新幹線金沢開業の前後である平成 25 年から平成 28 年にかけて、500 m²未満のものが面積・箇所数とも増加した一方、500 m²以上のものは面積が減少、箇所数が若干増加しました。



② 空き家

空き家の問題が顕在化しています。

平成 24 年度版住宅地図を用い、空き家数を把握したところ、都市計画区域の面積の 3.6%に過ぎないまちなか区域*において、空き家数は都市計画区域内の 30%を占めており、区域以外に比べて、空き家率が高い状況にありました。



また、平成 27 年度にモデル地区で実施した空き家等の現状調査（中心市街地内の 2 町（約 34ha）、郊外部の 2 町（約 35ha）での悉皆調査）においても、まちなか区域*の空き家率が郊外部に比べて高く、空き家が増加していることが分かりました。

まちなか区域と郊外部の空き家率

区分	空き家等件数	住宅総数	空き家率
まちなか区域（H27）	95	1,188	8.0%
まちなか区域（H21）	86	1,168	7.4%
郊外部（H27）	26	762	3.4%

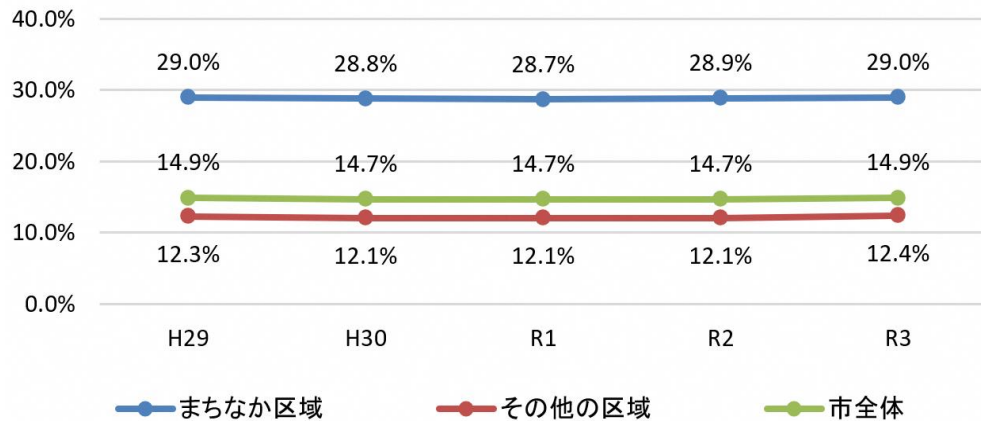
まちなかには、持ち家所有率の高い高齢者世帯（高齢者単身世帯 67.9%、高齢者を含む一般世帯 85.6%）が多いことから、今後も空き家の増加が予想され、防災面において大きな課題となることが考えられます。

また、まちなか区域*内の空き家の半数以上は幅員が 4 m未満の道路に面しており、旗竿状の敷地や長屋形式の建物も多く、流通や建て替えが難しいものが多数存在しています。

《参考：水道の休止状況》

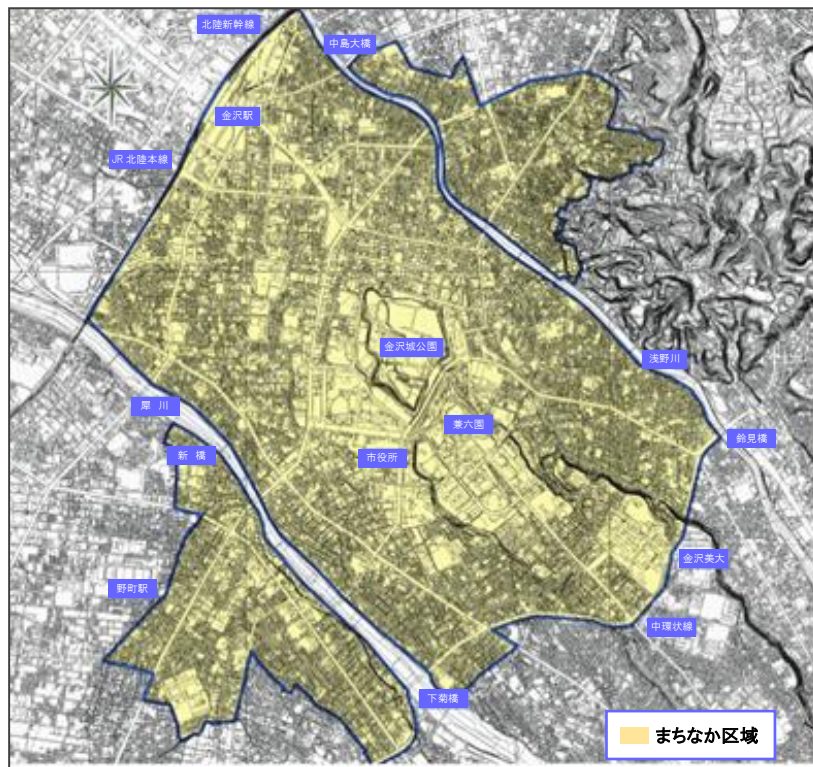
1年以上水道を休止している住宅の割合（水道休止率）は、まちなか区域*が高くなっています。また、近年は増加傾向が続いています。

$$\text{水道休止率} = \frac{\text{1年以上の期間で休止されているもの}}{\text{家庭住居、集合住宅の水道使用者}}$$



出所：金沢市企業局水道休止データ

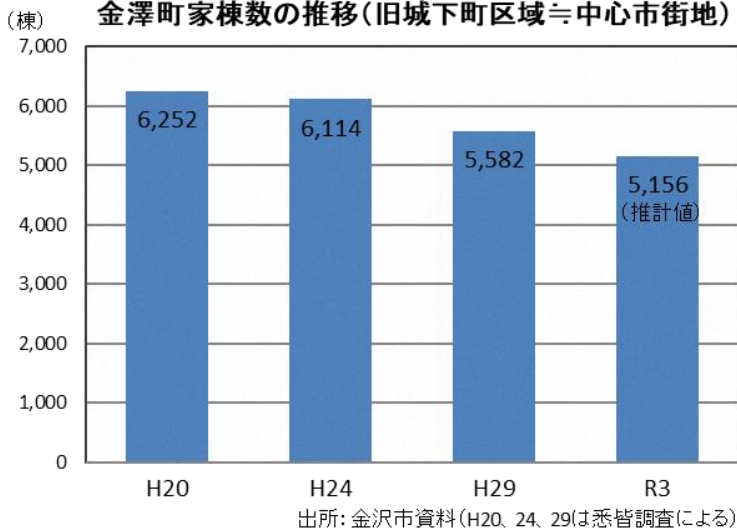
* まちなか区域とは、まちなか定住促進事業の対象となる区域であり、本計画で定める区域とほぼ重複しています。



③ 金澤町家

文化的景観をつくる金澤町家が、年々消失しています。

中心市街地の歴史的資源として文化的景観を形成する重要な要素である金澤町家の消失は年々進行しており、伝統的なまちなみの消失、まちなかの空洞化に影響を与えています。

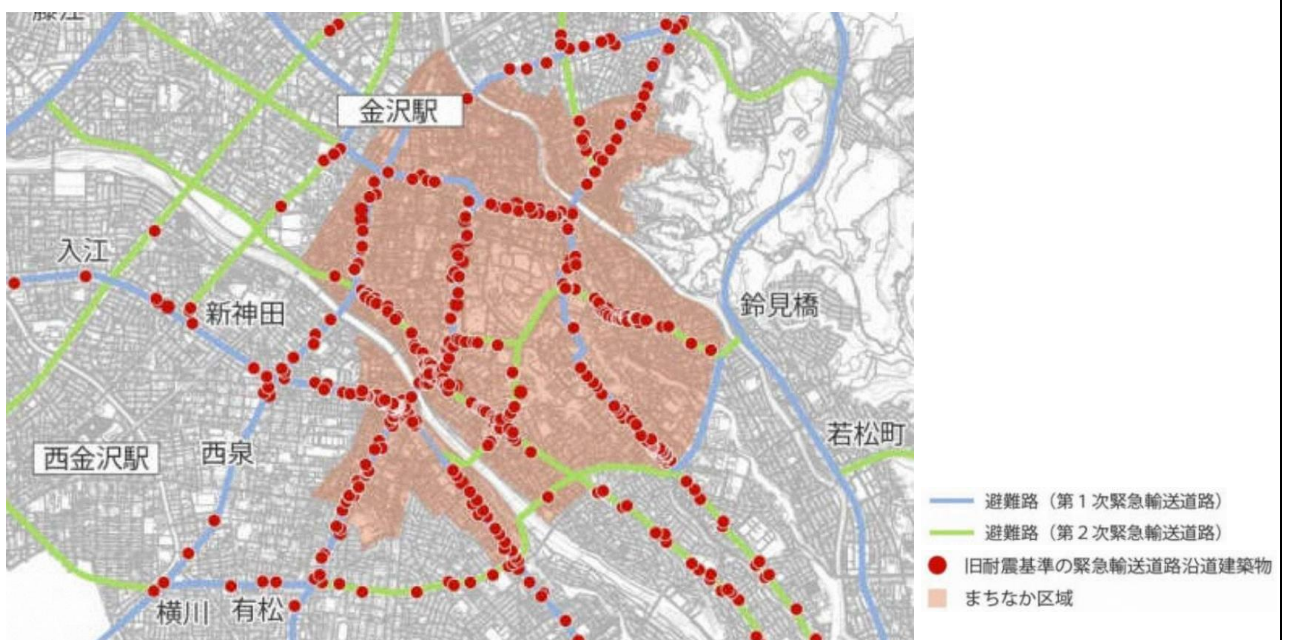


④ 緊急輸送道路沿道建築物

多くの旧耐震基準の緊急輸送道路沿道建築物がまちなか区域に存在しています。

まちなか区域には約 310 棟の旧耐震基準の緊急輸送道路沿道建築物が存在し、災害時における救援活動の生命線となる道路の機能に支障をきたす可能性があります。

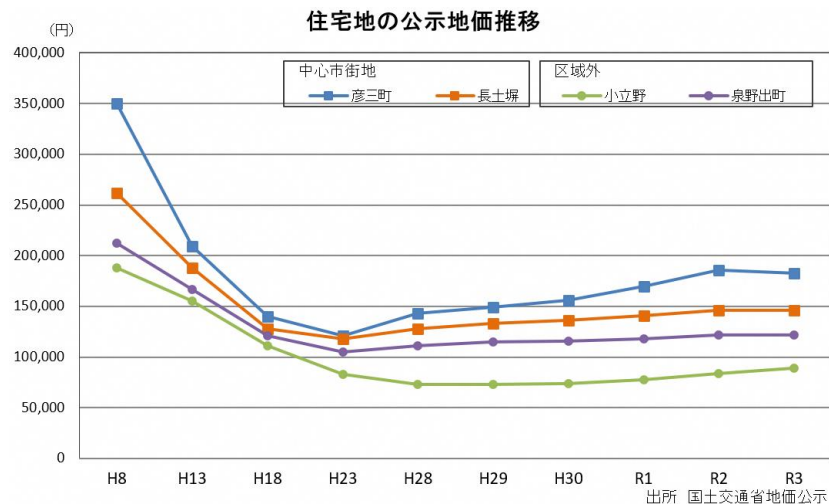
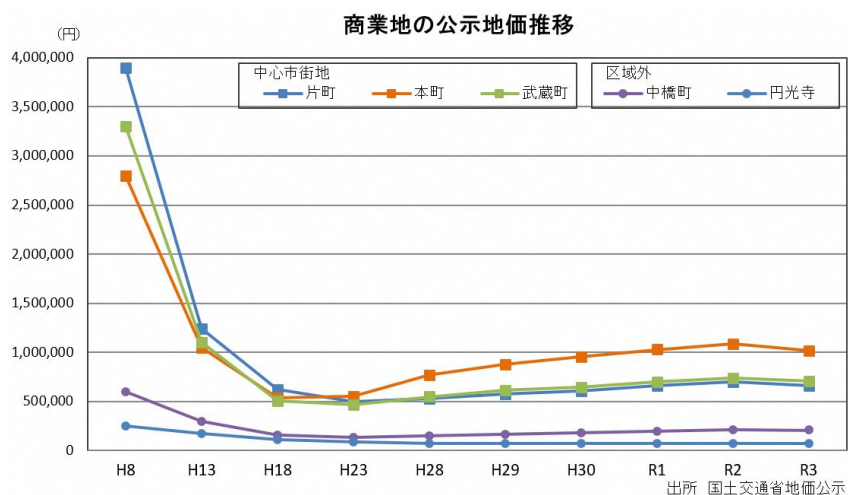
※旧耐震基準：昭和 56 年以前の耐震基準



出所：第3次金沢市建築物耐震改修促進計画

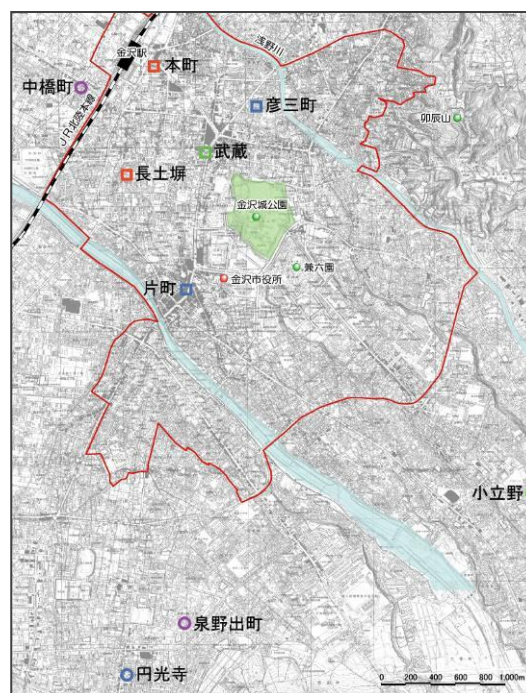
⑤ 地価

商業地、住宅地とも、地価は回復傾向にありましたが、中心市街地では令和3年に下落に転じています。



	商業地				
	片町	本町	武蔵町	中橋町	円光寺
H8	3,900,000	2,800,000	3,300,000	600,000	255,000
H13	1,240,000	1,050,000	1,100,000	300,000	172,000
H18	620,000	540,000	510,000	156,000	115,000
H23	500,000	555,000	465,000	132,000	91,500
H28	530,000	770,000	550,000	150,000	74,000
H29	580,000	880,000	615,000	170,000	73,000
H30	610,000	955,000	650,000	185,000	72,000
R1	660,000	1,030,000	700,000	200,000	72,000
R2	700,000	1,090,000	740,000	212,000	72,000
R3	660,000	1,020,000	705,000	209,000	71,500

	住宅地			
	彦三町	長土堀	小立野	泉野出町
H8	350,000	262,000	188,000	212,000
H13	209,000	188,000	155,000	167,000
H18	140,000	128,000	111,000	121,000
H23	121,000	118,000	83,000	105,000
H28	143,000	128,000	73,000	111,000
H29	149,000	133,000	73,000	115,000
H30	156,000	136,000	73,500	116,000
R1	170,000	141,000	77,500	118,000
R2	186,000	146,000	83,500	122,000
R3	183,000	146,000	89,000	122,000

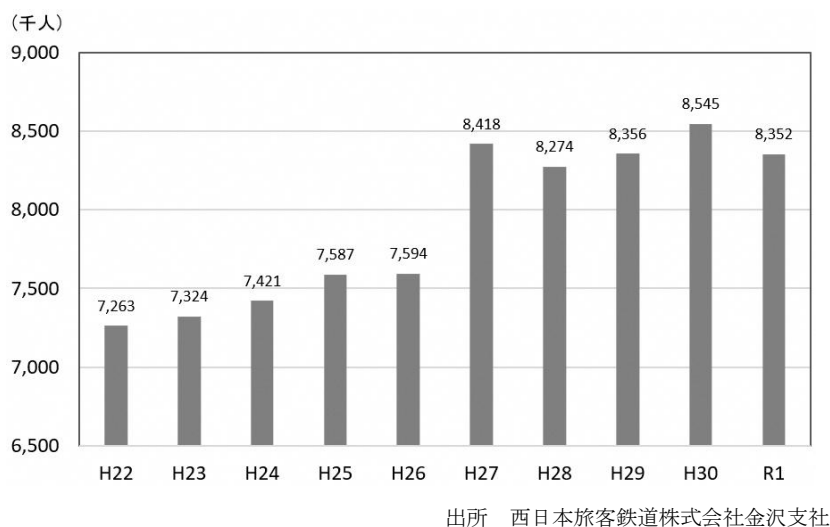


○交通の状況

①鉄道の利用状況の推移

JR 金沢駅の乗車人員数は順調に増加していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少傾向に転じています。

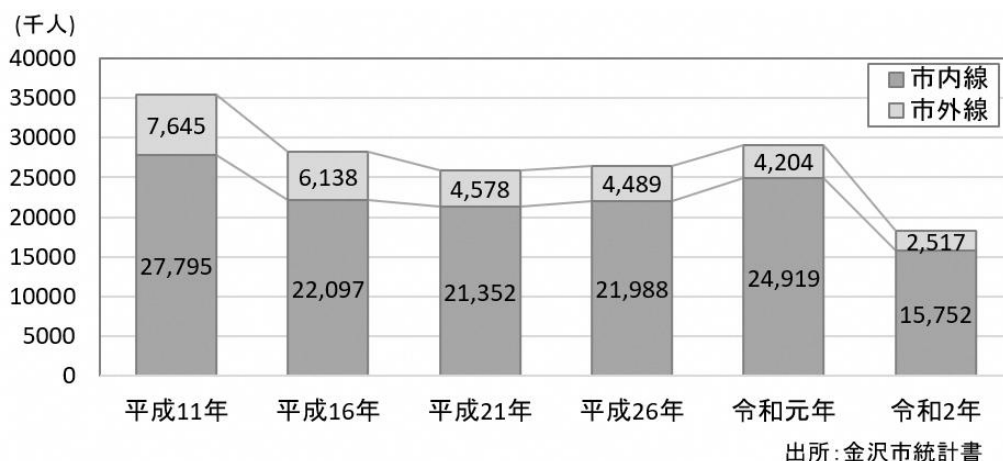
近年の JR 金沢駅の乗車人員数は、平成 27 年度の北陸新幹線金沢駅開業の影響もあって順調に増加し続けていましたが、令和元年度には新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響により減少に転じました。



②バスの利用状況の推移

路線バスの乗車人員数は回復傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一気に落ち込みました。

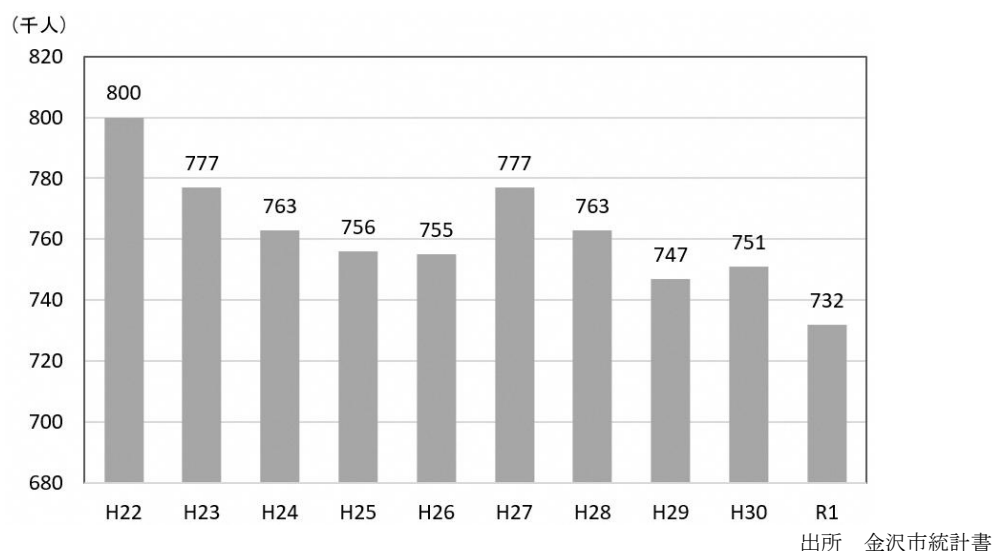
路線バスの乗車人員数は、平成 21 年度以降、路線バスに含まれるまちなか観光用周遊バスの乗車人員数の増加により増加傾向にありましたが、令和 2 年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一気に落ち込みました。



コミュニティバスの乗車人員数は減少傾向となっています。

金沢市の中心市街地を中心に循環しているコミュニティバスである「ふらっとバス」の乗車人員数の推移を見ると、北陸新幹線金沢開業となった平成 27 年は、観光客の増加に伴って乗客数も底上げされました。

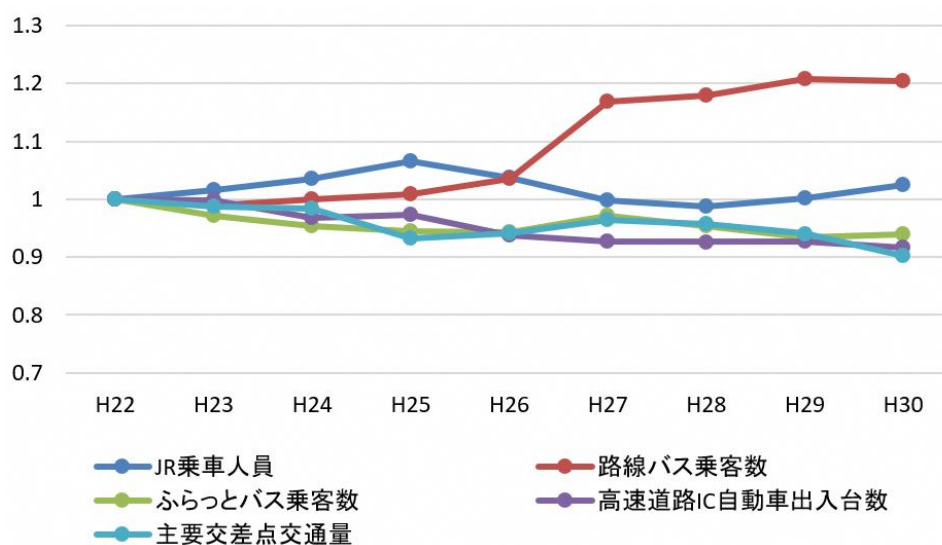
しかしながら、基本的には減少傾向続いているとともに、令和元年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、大きく落ち込んでいます。



③各交通手段の利用状況の推移

10 年前と比べて路線バスや J R の乗車人員数は増加、自動車やふらっとバスの利用者は減少しています。

10 年前と比べ、J R 利用者は微増、路線バス利用者は大きく増加していることが分かります。

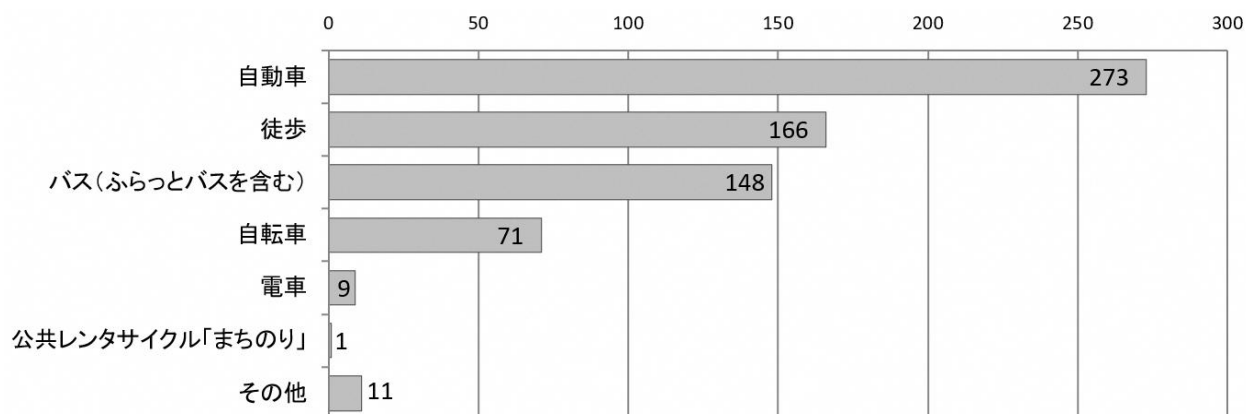


出所 金沢市統計書

④ 中心市街地での交通手段

中心市街地を移動する手段は、自動車が多くなっています。

令和 3 年度に実施したアンケートにおける「中心市街地での主な移動手段は何ですか（または中心市街地へは、どのような交通手段で来られますか）」との設問に対し、「自動車」との回答が最も多くなっています。



[3] 地域住民のニーズ等の把握・分析

1. 金沢市中心市街地活性化に関する市民アンケートに基づく把握・分析

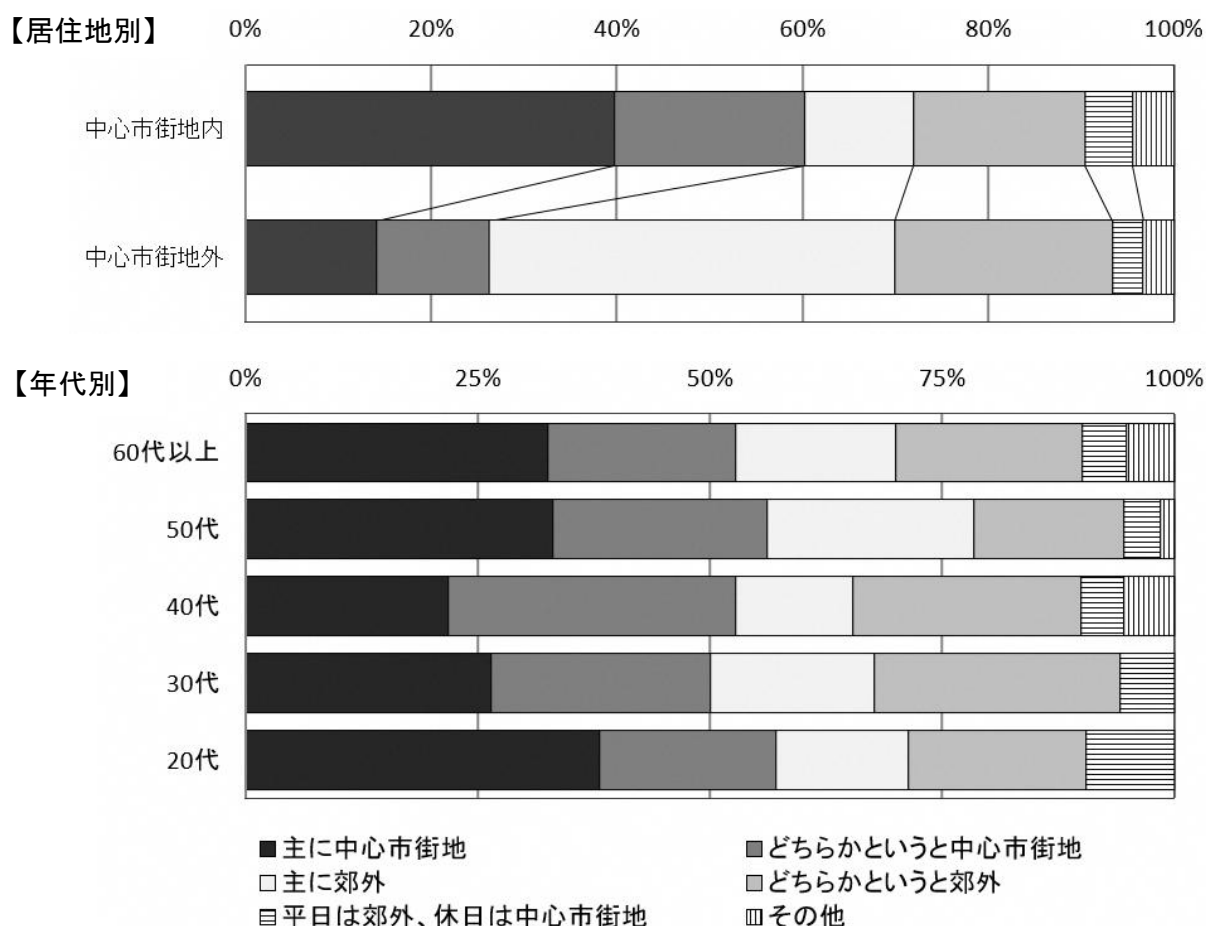
【実施概要】

調査期間：令和3年6月30日～7月31日

調査対象者：金沢市住民基本台帳に記載されている20～70歳の男女

調査方法：郵送配布回収 配布数 1,400、回収数 617、回収率 44.1%

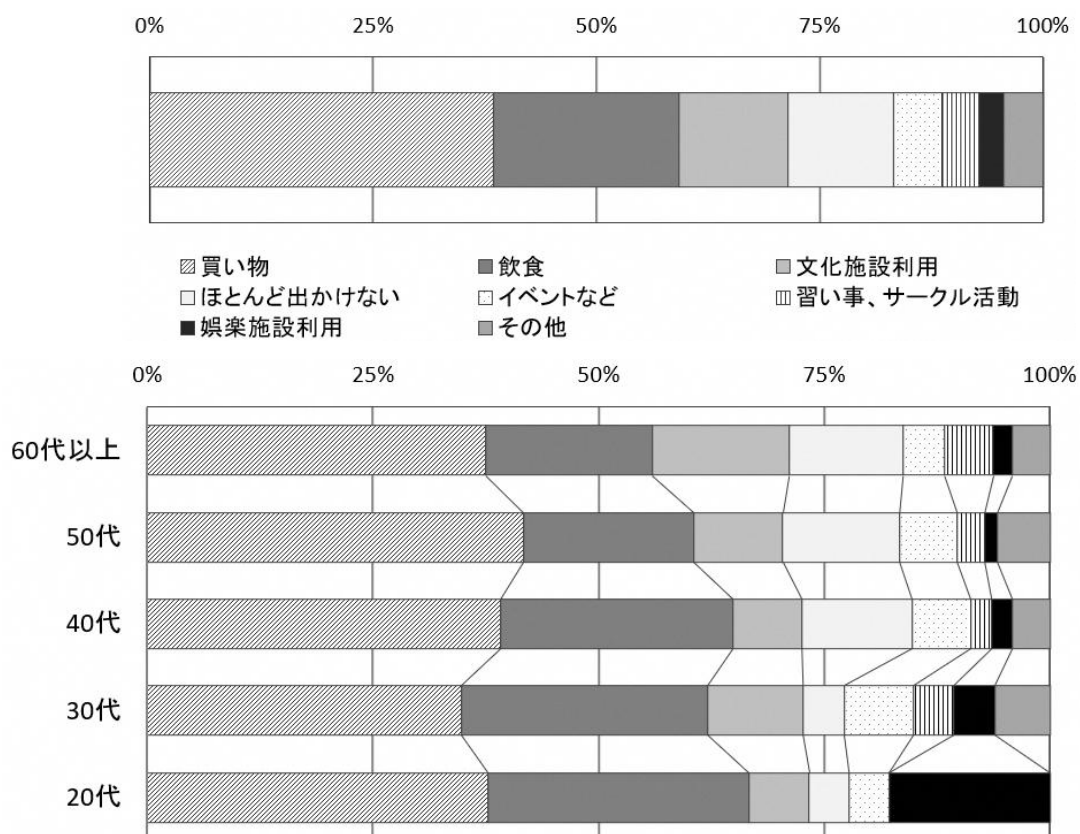
設問：あなたは、日頃、中心市街地と郊外のどちらに出かけることがありますか



居住地別に回答を見ると、中心市街地・区域外の居住者の外出先、「主に郊外」「どちらかというと郊外」の割合は67.1%と5年前調査時より増加しており、外出先として中心市街地を選択しない傾向はやや増加しました。年代別では、主な外出先を「主に中心市街地」「どちらかというと中心市街地」とした割合が30代で半数程度と最も低くなっているとともに、5年前調査時と比べて30代と60代以上においてその割合が低下しています。

中心市街地外居住者の中心市街地へ外出する機会は減少しています。
20代、40～50代では、中心市街地に出かける割合が高まっています。

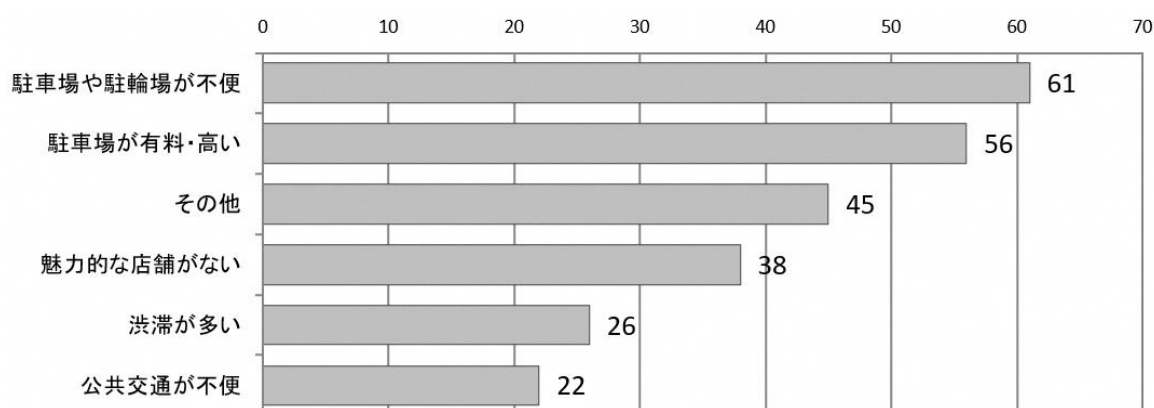
設問：あなたが日頃、通勤・通学以外で「中心市街地に出かける」目的は何ですか



中心市街地へ出かける目的は、買い物及び飲食が全体の5割以上を占めています。また、5年前調査時と比べて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって「イベントなど」が減少、「ほとんど出かけない」が増加しています。

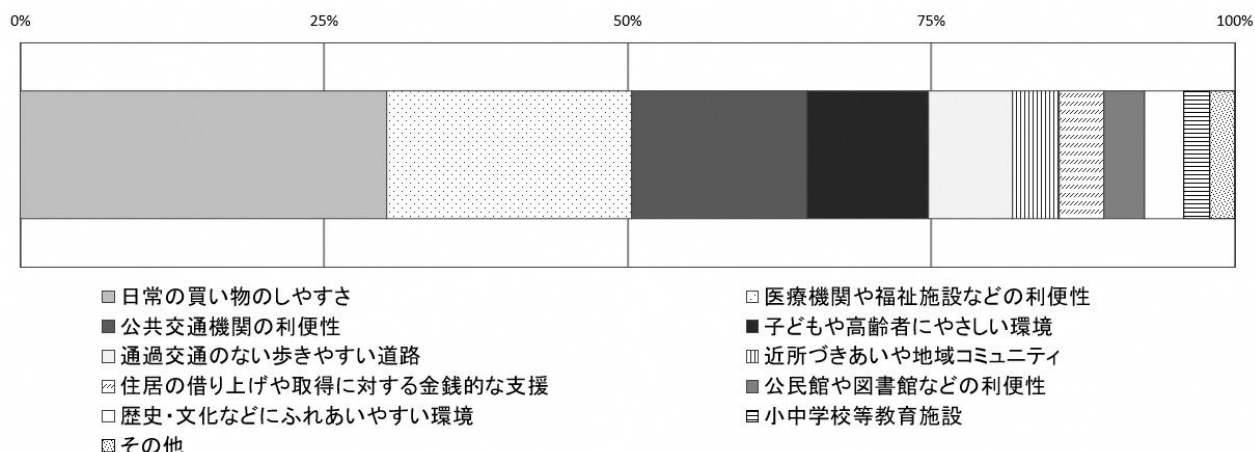
年代別で見ると、20代では「飲食」、30代以上では「イベントなど」「文化施設利用」が低くなっています。

設問：中心市街地に出かけない理由は何ですか



中心市街地に出かけない理由は、駐車場の利便性や料金など、移動交通に関する問題が大きくなっています。

設問：中心市街地に住む（住み続ける）場合、何が特に必要だと思いますか

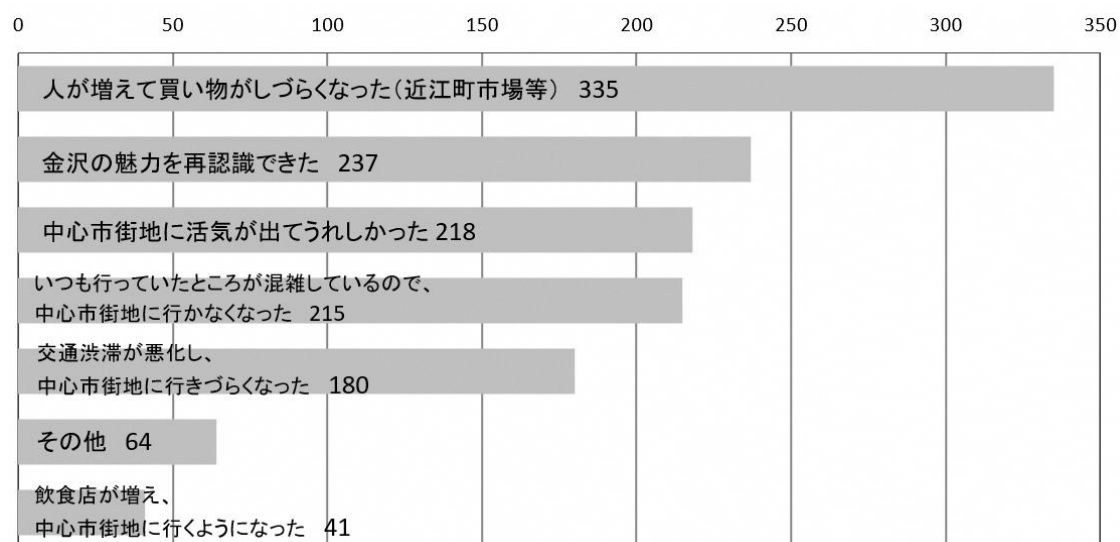


中心市街地で居住する場合、日常の買い物のしやすさが最も重視されているほか、自動車に頼りすぎずに生活出来る環境づくり等が求められています。

	20代	30代	40代	50代	60代以上
日常の買い物のしやすさ	27.8%	31.0%	30.2%	32.0%	29.3%
医療機関や福祉施設などの利便性	16.7%	17.0%	18.4%	20.1%	21.3%
公共交通機関の利便性	13.0%	17.0%	14.4%	18.7%	12.7%
子どもや高齢者にやさしい環境	11.1%	9.0%	9.5%	8.1%	11.0%
通過交通のない歩きやすい道路	7.4%	5.0%	9.2%	7.2%	6.3%
近所づきあいや地域コミュニティ	3.7%	3.0%	2.3%	4.5%	4.1%
住居の借り上げや取得に対する金銭的な支援	11.1%	7.0%	4.9%	2.5%	2.8%
公民館や図書館などの利便性	3.7%	2.0%	2.0%	2.5%	4.3%
歴史・文化などにふれあいやすい環境	1.9%	1.0%	3.3%	2.5%	4.0%
小中学校等教育施設	0.0%	4.0%	3.0%	1.1%	2.1%
その他	3.7%	4.0%	3.0%	0.8%	2.0%

年代別の違いを見ると、若年世代ほど「住居の借り上げや取得に対する金銭的な支援」、高齢世代ほど「医療機関や福祉施設などの利便性」を求めていることがわかります。

設問：新型コロナ流行前に観光客が大幅に増えていたことについて、
どのように思われますか（複数回答可）

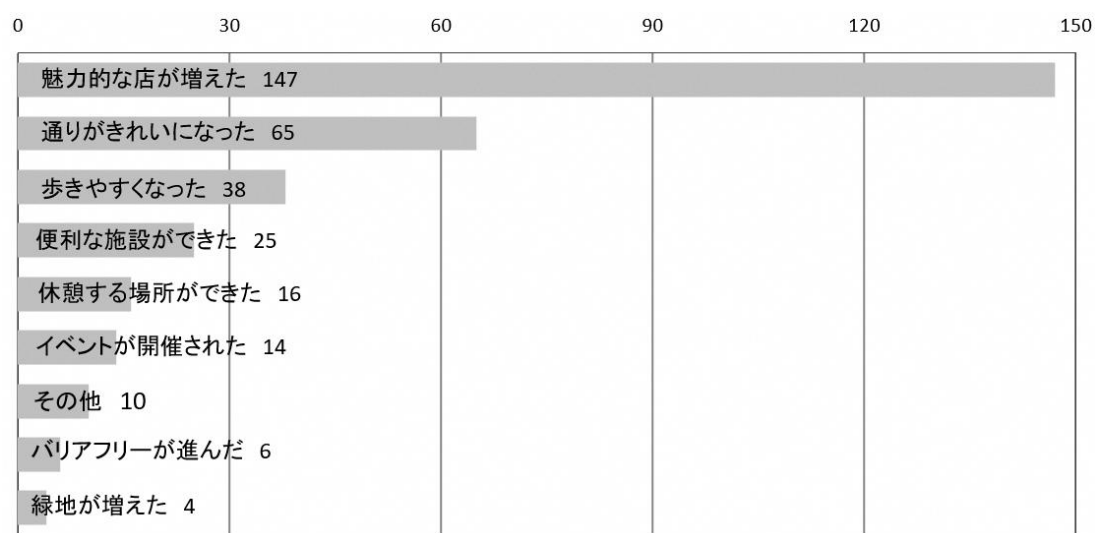


来街者の増加によって、金沢の魅力を再認識できたことや中心市街地に活気が出たことを喜ぶ意見が上位に挙がったものの、その一方で、市民の台所として親しまれてきた近江町市場等では人が増えて買い物がしづらくなったとの意見が最も多くなりました。

また、まちなかの混雑や交通渋滞を嫌い、中心市街地を避けているという回答も多く見られました。

住民は、観光客の増加による活性化を歓迎する一方で、混雑などの弊害を感じています。

設問：中心市街地内のエリア（商店街）において、最近良くなった（魅力的になった）と感じた理由は何ですか（複数回答可）



市民が魅力を感じ、行きたくなる場所とするためには、魅力的な店舗・施設の立地や清潔な環境、回遊・休憩しやすい環境づくり等が求められています。

設問：これからの中心市街地活性化には、何が必要だと思いますか（5 つまで選択可）

選択肢	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
1. 歴史・文化を活かしたまちづくり	5.8%	8.5%	9.8%	7.8%	8.2%	8.3%
2. 歩けるまちづくり	9.3%	7.2%	9.6%	9.9%	11.9%	10.7%
3. 定住の促進	4.7%	7.2%	5.0%	4.2%	5.6%	5.3%
4. 賑わいのある商店街づくり	5.8%	6.5%	10.5%	9.0%	8.5%	8.8%
5. 公共交通の充実	15.1%	12.4%	11.6%	14.3%	9.4%	11.2%
6. 再開発など、都市基盤整備	3.5%	4.6%	3.5%	3.1%	2.8%	3.1%
7. 市民参加によるまちづくり	1.2%	2.6%	1.7%	1.1%	1.5%	1.5%
8. 地域コミュニティの再生	0.0%	1.3%	1.7%	1.8%	2.8%	2.2%
9. 観光と市民生活が共存するまちづくり	9.3%	9.2%	10.0%	9.4%	9.8%	9.7%
10. 安全・安心のまちづくり	11.6%	11.1%	11.8%	10.3%	11.7%	11.4%
11. 大学などと連携したまちづくり	1.2%	2.0%	0.4%	1.8%	1.1%	1.2%
12. 環境にやさしいまちづくり	4.7%	8.5%	7.0%	6.1%	6.6%	6.6%
13. 緑を増やす	3.5%	5.2%	5.7%	5.1%	3.2%	4.2%
14. バリアフリーを進める	11.6%	4.6%	6.3%	7.6%	7.8%	7.4%
15. 屋外の憩いの空間を増やす	9.3%	7.2%	3.1%	6.9%	7.1%	6.4%
16. その他	2.3%	1.3%	1.7%	1.3%	1.4%	1.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

回答が多い順に「安全・安心のまちづくり」「公共交通の充実」「歩けるまちづくり」「観光と市民生活が共存するまちづくり」「賑わいのある商店街づくり」の順となりました。世代別の違いを見ると、若年世代においては「バリアフリーを進める」「屋外の憩いの空間を増やす」「環境にやさしいまちづくり」、高齢世代においては「歩けるまちづくり」の回答割合が高くなっています。

安心して暮らせる環境づくりが重視されている一方、活性化を図る場として歩けるまちづくりや賑わいのある商店街としての環境整備等が求められています。

2. 金沢市eモニターアンケートに基づく把握・分析

【実施概要】

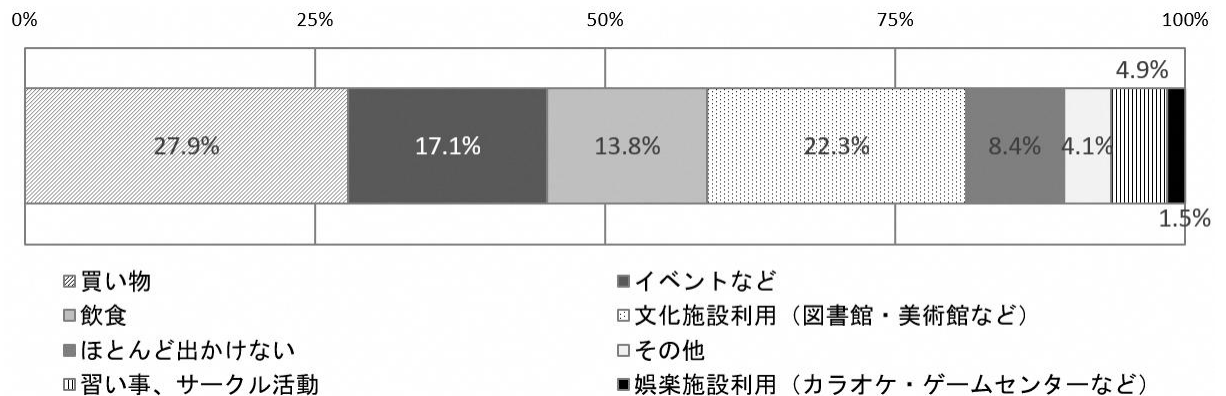
調査期間：令和3年11月5日～19日

調査対象者：18歳以上の市民

調査方法：HPアンケートフォームでの回答

登録者数 250名、回答数 208名、回答率 83.2%

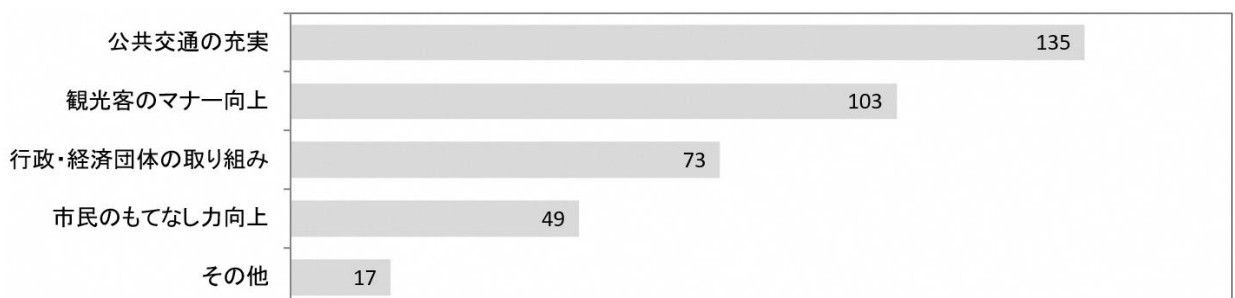
設問：あなたが日頃、中心市街地へ出かける目的は何ですか



中心市街地へ出かける理由は、買い物、文化施設利用、イベント、飲食が主な理由となっています。また、令和元年調査時と比べ、「文化施設利用」の増加が目立ちます。

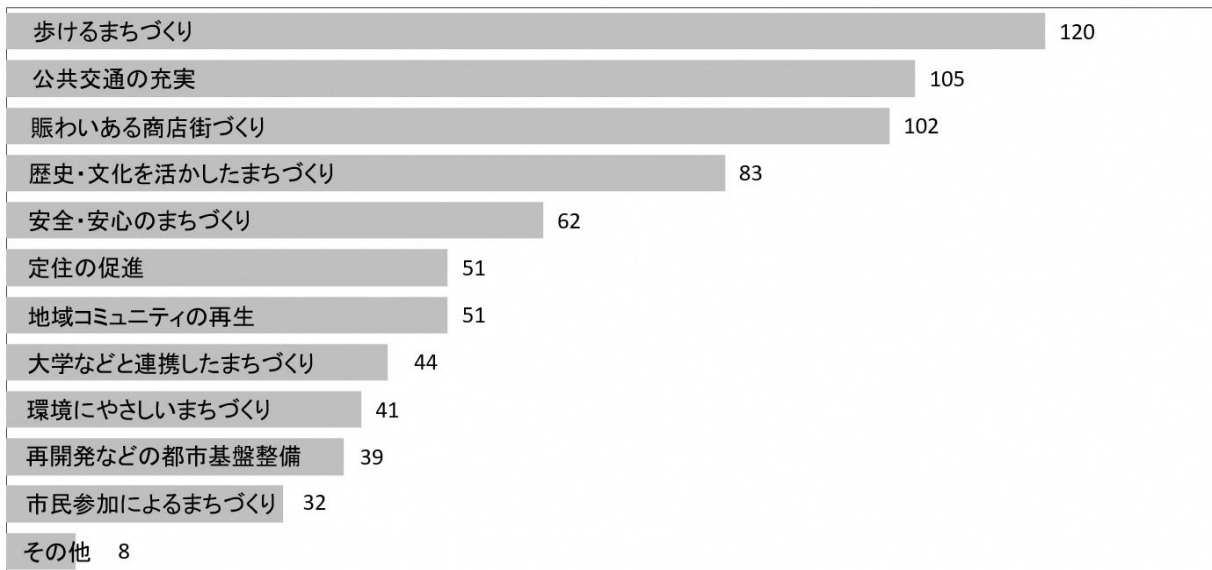
文化施設利用を目的に中心市街地に出かける市民が多くなっています。

設問：観光客と市民が、どちらも快適に中心市街地で過ごすために、何が必要だと思いますか



観光客と市民が共存するため、公共交通の充実を求める声が多くなっています。

設問 観光だけに依存せず、中心市街地の活性化を図るために、どのようなことが必要だと思いますか



中心市街地の活性化を図るためには、歩けるまちづくり、公共交通の充実、賑わいある商店街づくり、歴史・文化を活かしたまちづくりが求められています。

平成 28 年調査時と比べると、定住の促進、地域コミュニティの再生の必要性が高まっています。

[4] これまでの中心市街地活性化に対する取り組みの検証

① 金沢市中心市街地活性化基本計画の概要

- ・計画期間 平成 29 年 4 月～令和 4 年 3 月（5 年間）
- ・区域面積 約 860ha
- ・基本的な方針及び目標

（基本的な方針）

1. 交流人口の拡大を図りながら、市民生活と来街者の調和を図る
2. 商業・交通などの再生を促し、まちなかへのアクセシビリティを高める
3. これまで培ってきた文化やまちの個性を保全・活用する

目標	目標指標	基準値	目標値
まちなかの定住者を増やす	中心市街地の 45 歳未満人口の年間社会動態	+94 人/年 (H24～27 の平均)	+156 人/年 (H29～R3 の平均)
	まちなか住宅支援制度の活用による県外からの移住者数	23 人/年 (H27)	38 人/年 (H29～R3 の平均)
幅広い年代を対象とする魅力ある商業環境を作る	商店街店舗の新規出店数	21 店舗 (H27)	28 店舗 (H29～R3 の平均)
公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える	バス乗客者数	80,466 人/日 (H27)	82,650 人/日 (R3)
歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける	中心市街地の市文化施設（14 施設）の利用者数	338,677 人 (H27)	393,000 人 (R3)
	外国人入り込み客数	256,000 人 (H27)	400,000 人 (R3)

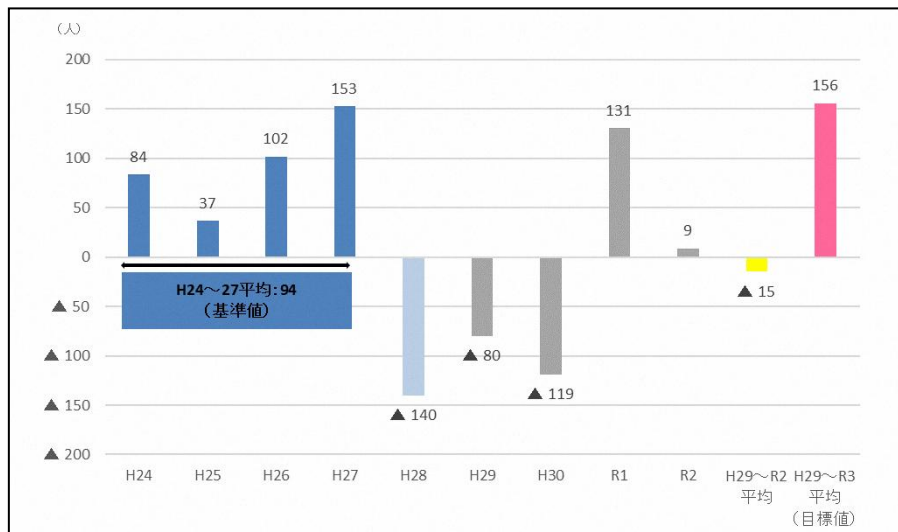
② 事業等の進捗状況

第 3 期計画では、4 つの目標達成に向け、170 事業に取り組んでいます。このうち 55 事業が完了または令和 4 年 3 月末までに完了予定、残り 115 事業には継続して取り組んでいます。

③ 目標の達成状況

・目標「まちなかの定住者を増やす」

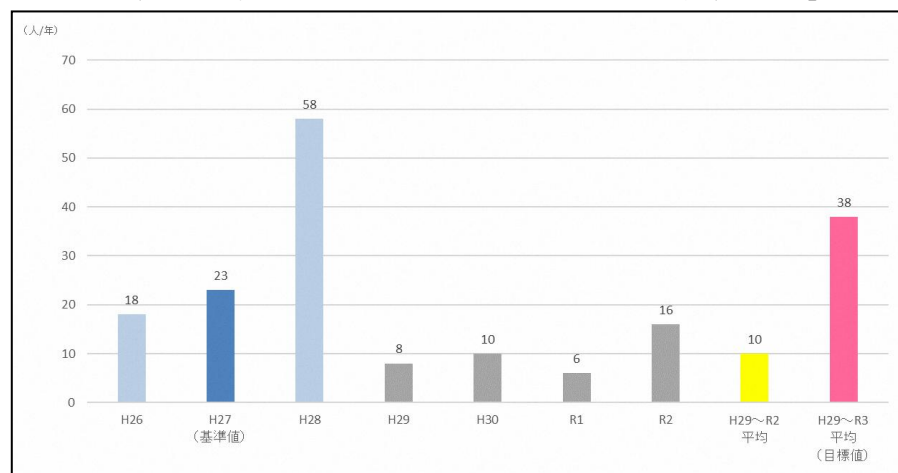
「中心市街地の45歳未満人口の年間社会動態」



年	(単位: 人/年)
H24 ~ 27 の平均	+ 94 (基準年値)
H28	▲140
H29	▲ 80
H30	▲119
R1	131
R2	9
H29 ~ R2 の平均	▲15
H29 ~ R3 の平均	+156 (目標値)

戸建住宅・共同住宅等への支援制度の充実等により、令和元年には+131人と、大きく増加したものの、令和2年は低調な結果となりました。目標値を平成29年～令和3年の平均値としているところ、まちなか定住促進事業が戸建住宅の増加に対して想定よりも効果をもたらさず、平成29年と平成30年は大幅なマイナスであり、令和2年も低調であったことから、目標指標の達成は極めて厳しい状況です。

「まちなか住宅支援制度の活用による県外からの移住者数」

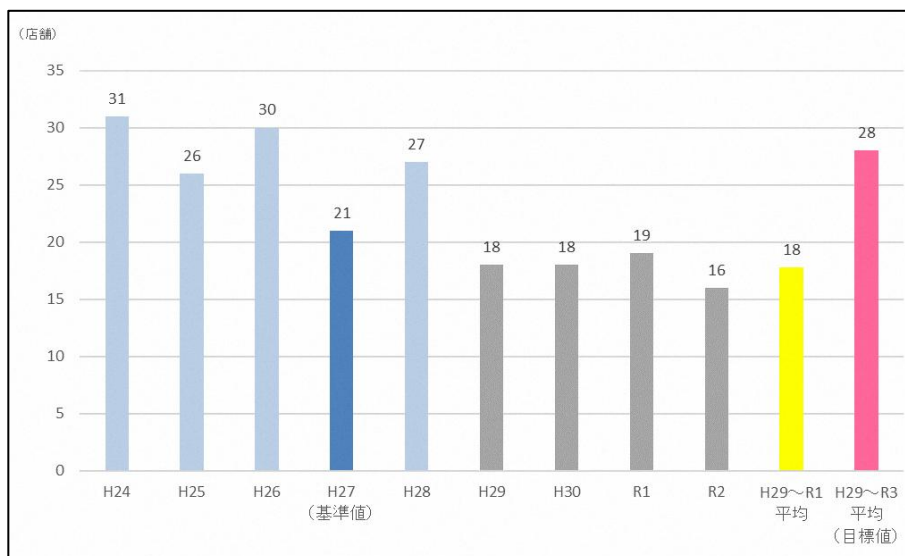


年	(単位: 人/年)
H27	23 (基準年値)
H28	58
H29	8
H30	9
R1	6
R2	16
H29 ~ R2 の平均	10
H29 ~ R3 の平均	38 (目標値)

目標値を平成29年度～令和3年度の平均値としているところ、定住促進と中心市街地で送る金沢らしい生活の魅力を発信する取組が、想定よりも効果をもたらさず、計画期間を通して数字は低調です。令和2年度は、住宅支援制度を一部見直し、分かりやすく整理したことで、2桁を回復したものの基準値にも及んでおらず、目標値の達成は極めて厳しい状況です。

・目標「幅広い年代を対象とする魅力ある商業環境を作る」

「商店街店舗の新規出店数」

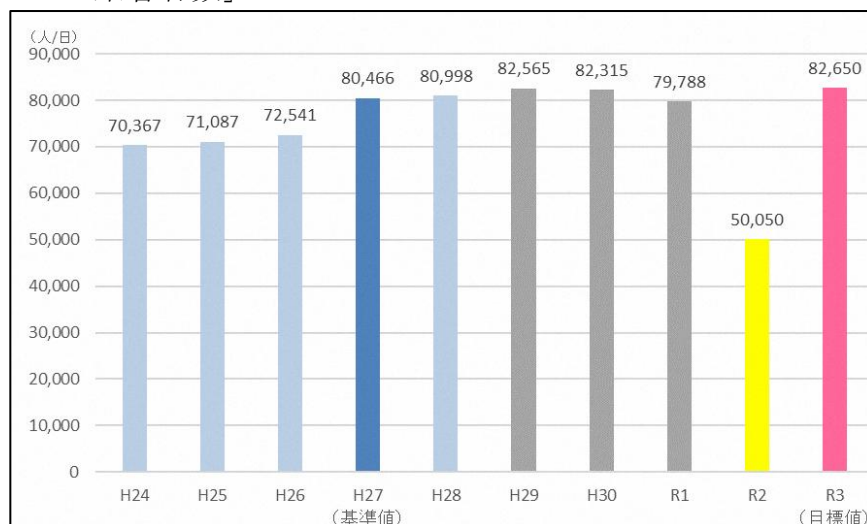


年	(単位:店舗)
H27	21 (基準年値)
H28	27
H29	18
H30	18
R1	19
R2	15
H29～R2 の平均	18
H29～R3 の平均	28 (目標値)

目標値を平成 29 年度～令和 3 年度の平均値としているところ、中心市街地出店促進事業や、各種賑わい創出のための事業が、想定よりも効果をもたらさず、今期を通して数字は低調です。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響でさらに落ち込んだため、目標値の達成は極めて厳しい状況です。

・目標「公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える」

「バス乗客者数」

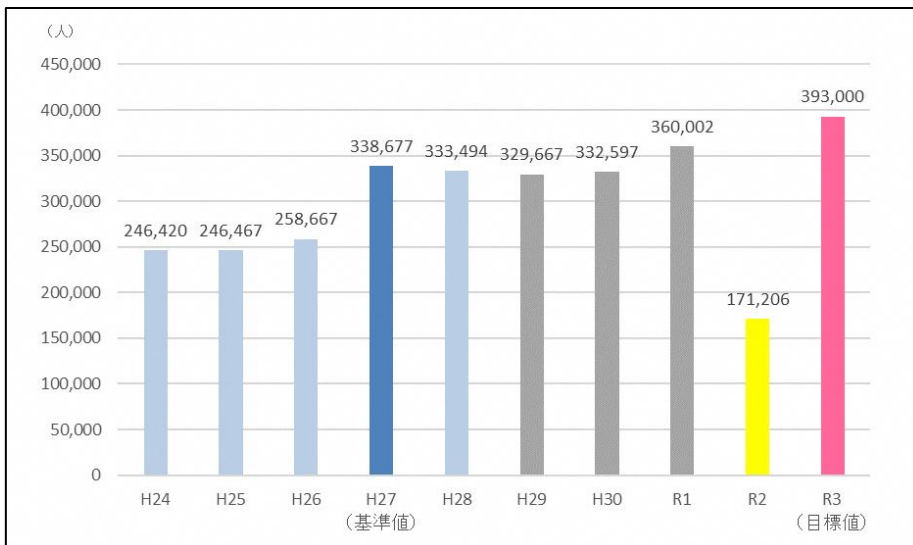


年	(単位:人/日)
H27	80,466 (基準年値)
H28	80,998
H29	82,565
H30	82,315
R1	79,788
R2	50,050
R3	82,650 (目標値)

平成 29～令和元年度の第 3 四半期までは、「パーク・アンド・ライド」や「第 2 次金沢交通戦略推進事業」が効果をもたらし、数字は順調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大によりバス利用が敬遠されたことなどから、令和 2 年度より、数字が大幅に落ち込みました。未だ新型コロナウイルス感染症の先行きは見通せず、数字の大幅な回復が見込めないことから目標値の達成は極めて厳しい状況です。

・目標「歴史文化資産を活かし市民・来街者を引きつける」

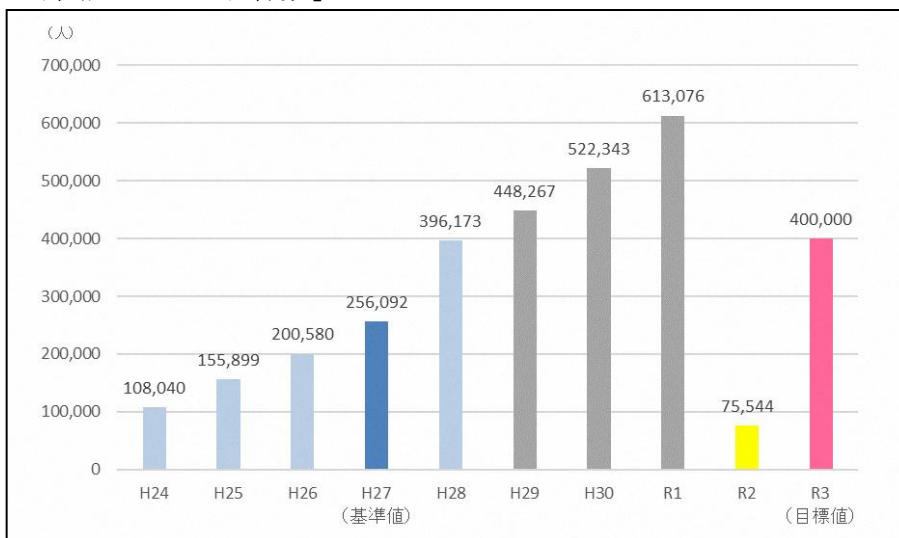
「中心市街地の市文化施設（14 施設）の利用者数」



年	(単位:人)
H27	338,677 (基準年値)
H28	333,494
H29	329,667
H30	339,853
R1	360,002
R2	171,206
R3	393,000 (目標値)

平成 29 年～令和元年までは、夜の賑わい創出事業や建築文化拠点整備事業が効果をもたらし、数字は順調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和 2 年度から、数字が大幅に落ち込みました。未だ新型コロナウイルス感染症の先行きは見通せず、数字の大幅な回復が見込めないことから目標値の達成は極めて厳しい状況です。

「外国人入り込み客数」



年	(単位:人)
H27	256,000 (基準年値)
H28	396,173
H29	448,267
H30	522,343
R1	613,076
R2	75,544
R3	400,000 (目標値)

平成 29 年～令和元年までは、M I C E 誘致戦略推進事業や各種賑わい創出イベントの開催が効果をもたらし、目標値を上回る成果を上げていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和 2 年度から、数字が大幅に落ち込みました。未だ新型コロナウイルス感染症の先行きは見通せず、数字の大幅な回復は見込めないことから目標値の達成は極めて厳しい状況です。

④ 定性的評価

○市民アンケート調査の結果

令和3年7月に実施した市民アンケートの設問「中心市街地全体について、5年前と比べるとどのようになったと感じますか？」の回答結果は下記のとおりです。

「まちなかに住む人が増えたと感じますか」

「感じない」の回答が43.1%と最も多くなっています。

一方で「感じる」「少し感じる」の回答を合わせると34.7%となっています。

「商業環境が、幅広い年代にとって魅力的なものになったと感じますか」

「感じない」の回答が42.6%と最も多くなっています。

一方で「感じる」「少し感じる」の回答を合わせると39.1%となっています。

「公共交通を優先したまちなか環境になったと感じますか」

「変わらない」の回答が33.1%と最も多くなっています。

「感じる」「少し感じる」の回答を合わせると25.7%である一方で、

「感じない」の回答は27.2%となっています。

「歴史文化資産を目当てにまちなかにいきたいと感じますか」

「少し感じる」の回答が31.3%と最も多くなっています。

「感じる」「少し感じる」の回答を合わせると42.8%となっています。

「中心市街地は5年前と比べて活性化したと感じますか」

「感じない」の回答が29.0%と最も多くなっています。

一方で「感じる」「少し感じる」の回答を合わせると36.4%となっています。

以上により、「まちなかに住む人が増えたと感じますか」「商業環境が、幅広い年代にとって魅力的なものになったと感じますか」以外は、総じて、変わらないか、良くなった、やや良くなったと感じている市民が多く、事業効果が表れていると言えます。

○ 中心市街地活性化協議会の意見

金沢市と協議会では、関係部局間において基本計画の進捗状況についての意見交換を実施しており、事務局である金沢商工会議所や㈱金沢商業活性化センターなどと連携をとりながら基本計画に基づいた取り組みが進められている。

令和2年度は第3期基本計画の4年度目であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画が予定通り推進されないことにより、6つの数値目標のうちすべての項目において目標値を下回る結果となった。

しかしながら、計画の進捗状況に対する現状分析や新たに生じた課題の解決に向けた取り組みを図るなど一定の評価に値するものと思われる。

新型コロナウイルス感染拡大の影響が長期化しているが、コロナ禍に対応しながら、今後も市街地再開発事業やまちなか定住促進事業、中心市街地出店促進事業などの主要事業が着実に遂行され、中心市街地の更なる活性化が実現することを期待するものである。

〔5〕 中心市街地活性化の課題

現状		課題
○中心市街地の人口及び世帯数は減少が続いており、特に15歳以上45歳未満の階層において減少傾向が強くなっています	⇒	少子高齢化が進展している中心市街地の接続的な発展を図るため、区域外からの定住（特に若い世代）の促進に取り組む必要があります
○中心市街地は超高齢化が進展し、令和3年4月1日現在の高齢化率は36.0%となっています		
○低未利用地は、500㎡未満のものが減少した一方、500㎡以上のものが増加しました	⇒	安全面や景観の観点での住環境の質の低下を防ぐため、空き家化の抑制や低未利用地の解消に取り組むことが求められています
○高齢世帯数の増加に伴い、老朽化した空き家の問題が顕在化しています		
○都心軸に耐震が必要な老朽ビルが立ち並んでいます	⇒	都市機能を更新し、災害に強く安全に活動できる環境を整えるため、民間主導による再開発等の促進を支援する取組が求められています
○商圈における中心市街地の占有率は全体的に低下し続けています。		
○中心市街地の周辺に大規模集客施設が数多く立地しています	⇒	継続的な買い回りが期待できる市内及び商圈内からの来街者を増加させるため、商業店舗だけに頼らないウォークブルなまちなかの形成を通じた賑わいの創出が必要とされています
●中心市街地の活性化に必要なこととして「歩けるまちづくり」をあげる市民や「屋外の憩いの空間を増やす」をあげる若者世代が多くいます		
○新型コロナの影響もあり、公共交通の利用が落ち込んでいます	⇒	ゼロカーボンシティの実現や交通事故の減少のため、市民や来街者が、車に頼ることなく快適に移動可能な交通環境の整備が求められています
●公共交通や駐車場の充実を求める声が多くなっています		
○歴史建造物（金澤町家）が、年々消失しています	⇒	新旧の文化が息づくまちの個性を愛する来街者に選ばれ続けるため、伝統を守りつつ、新たな価値を生み出し続けることにより中心市街地の魅力を磨き高めていくことが必要とされています
●来街者の急増により、金沢の個性が失われることを危惧する声が寄せられています		
○新型コロナの影響により、来街者が大幅に減少しました		パンデミックや大規模自然災害等が発生しても、まちなかの賑わいを維持するため、遠方からの来街者に頼り過ぎない取組が必要とされています

○は〔2〕地域の現状分析、●は〔3〕地域住民のニーズ等の把握 に基づく

〔6〕 中心市街地活性化に関する基本的な方針

金沢市では、旧法計画及び認定計画（第1期、第2期、第3期）に基づく、中心市街地活性化の取組により、都市機能の低下を食い止め、伝統と賑わいが調和した金沢ならではのまちづくりを進めてきました。

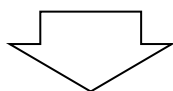
特に、第3期認定計画では、市民生活と来街者との調和という新たな課題の解決を目指しながら、これまでの取組のなかで、交流人口の拡大に大きく寄与した「古いものと新しいものが調和する美しいまちづくり」を継承しつつ、これまで培ったまちの個性や文化の保全、活用、商業施設や交通の再生を促進し、中心市街地の価値を高めるとともに、市民・来街者双方にとってアクセシビリティの高い環境を整備することで、定住人口及び交流人口の拡大を図り、中心市街地の活性化を推進しました。

その結果、社会動態の改善、交流人口の拡大など、徐々に取組の効果が発現されるようになりました。しかし、全国的な問題である人口減少・超高齢化、老朽化したビルや空き家、コインパーキングなどの低未利用地の増加による安全性やまちなみ景観の問題は依然として改善されていません。加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、まちを訪れる人が激減し、まちの賑わいが減っています。今後も、パンデミックの流行や大規模自然災害が繰り返し発生することが予想されるなど、不確実性が高まっています。そうした中、先人から引き継いだまちの個性と魅力を磨き高めることに加え、まちの多様性と包摂性を確保することで、より多くの市民にとって「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を創出し、遠方からの来街者に過度に依存することなく、住む人と訪れる人が「しあわせ」を共創する持続可能なまちを実現することを目指し、下記の3つを基本的な方針として定めて、新たな計画を策定します。

【目指す中心市街地の都市像】

多様性と包摂性の確保により

住む人と訪れる人が「しあわせ」を共創する持続可能なまち



【基本的な方針】

- ・ 住む人にも訪れる人にも快適で楽しいまちづくり
- ・ 人も地球も元気になるまちづくり
- ・ 文化やまちの個性を磨き高めるまちづくり